

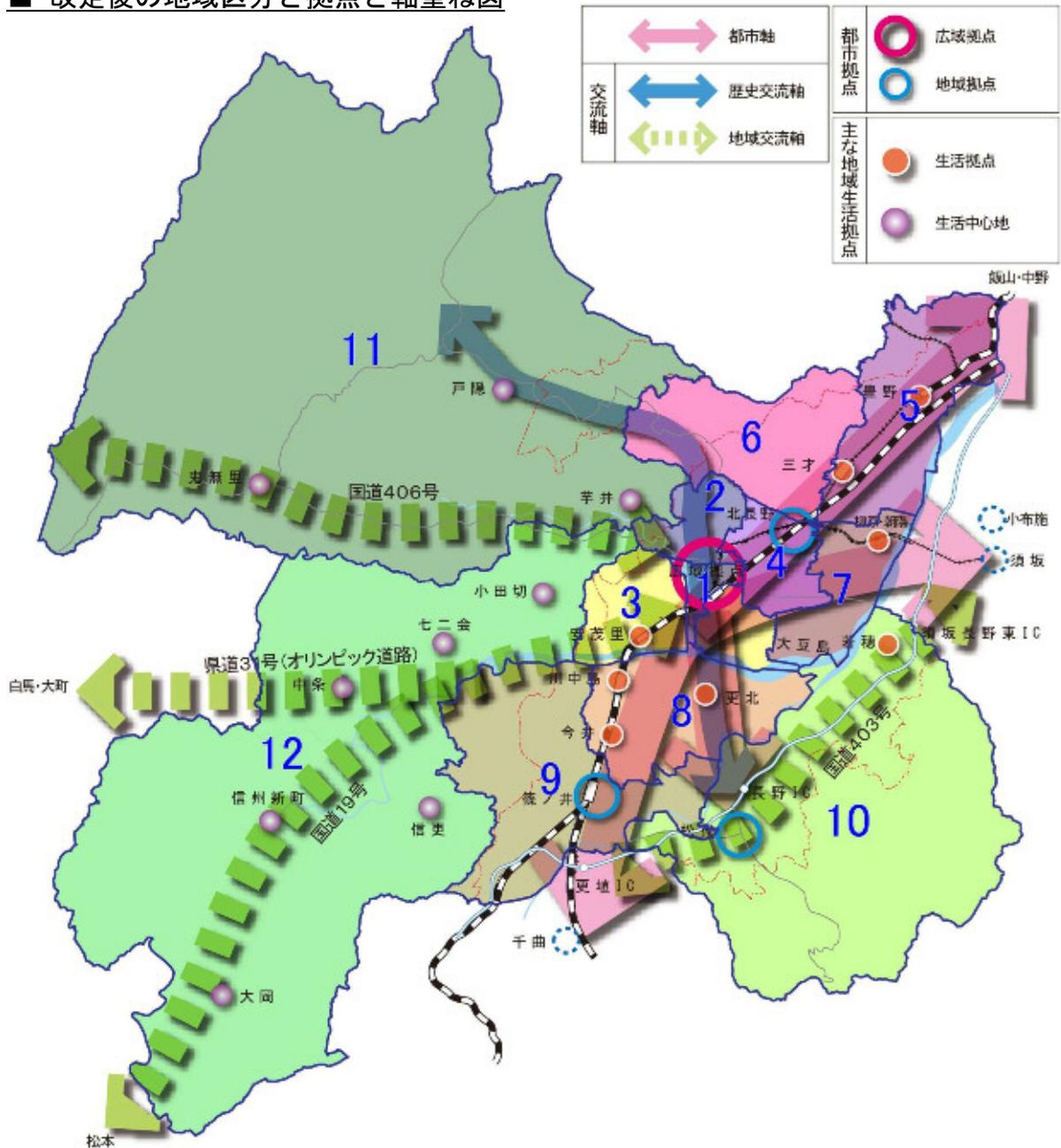
平成 28 年度 都市計画マスタープラン改定専門部会 第 10 回資料
 (地域区分の改定と地域別まちづくり構想案 修正)

1. 地域区分改定の考え方

次の考え方を踏まえ、現行の都市計画マスタープランの区域区分も考慮し 12 地域を設定する。

- ①行政区分を基本と単位とする。
- ②土地利用（区域区分）を考慮する。
- ③地形を考慮する。
- ④都市構造の軸や拠点に合わせたグループ分けとする。

■ 改定後の地域区分と拠点と軸重ね図



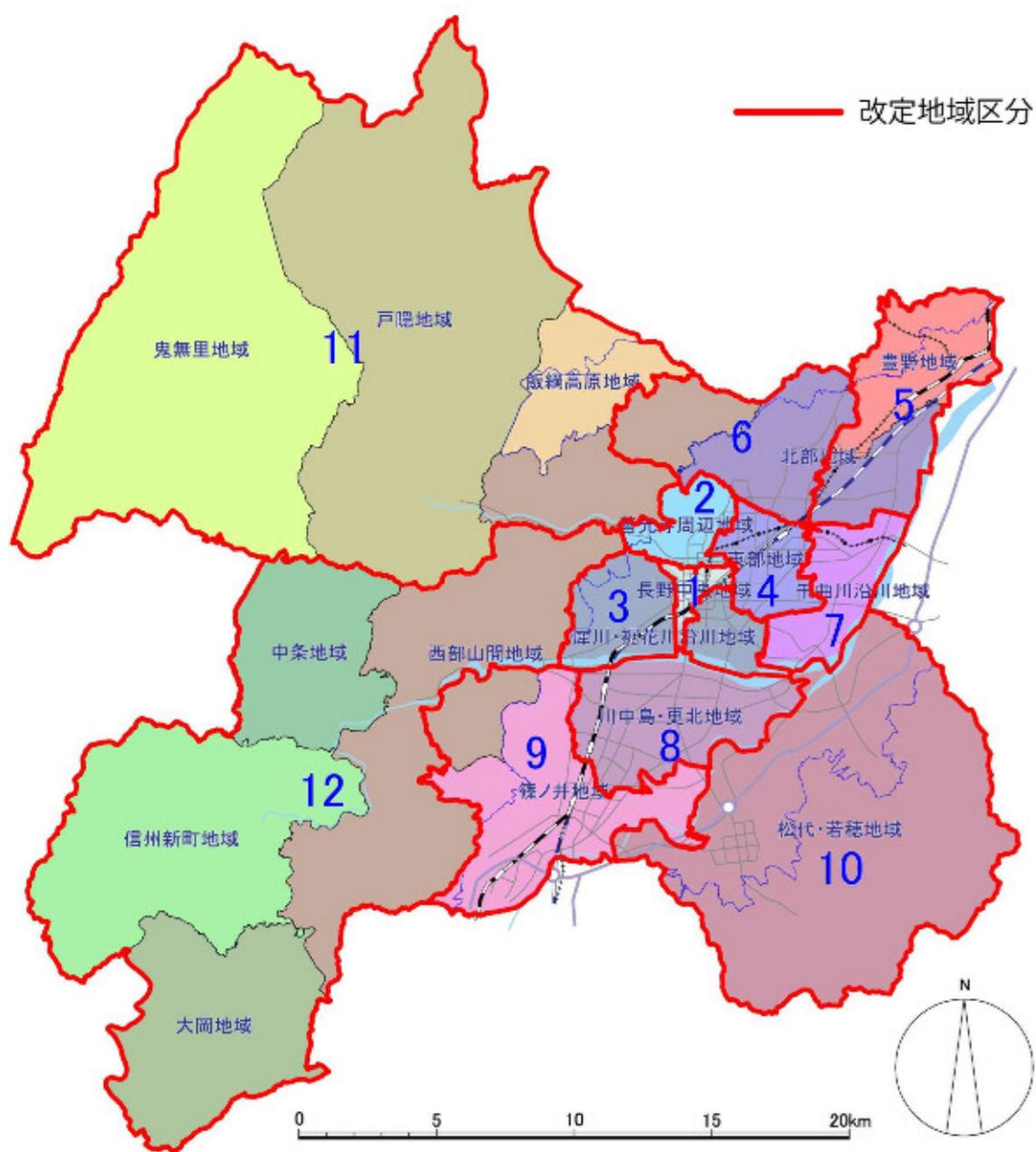
2. 現行計画の地域区分と改定地域区分の対応

現行計画である平成19年都市計画マスタープランは、合併に伴う改定であったため、合併町村は単独の扱いとした経緯がある。本見直しにおいては、地域のつながりや規模を考慮して、地域の状況に応じた地区割に変更し、合併町村もあわせた一体のまちづくりを進める。

現行の地域区分 (+信州新町、中条)		内訳(地区名)	都市軸をイメージした 改定地域区分		内訳(地区名)
1	長野中央地域	第3 第4 第5	1	長野駅善光寺口周辺地域	第3 第4 第5
2	善光寺周辺地域	第1 第2	2	善光寺周辺地域	第1 第2
3	犀川・裾花川沿川地域	芹田 安茂里	3	芹田・安茂里地域	芹田 安茂里
4	東部地域	古牧 三輪 吉田	4	東部地域	古牧 三輪 吉田
5	北部地域	長沼 古里 若槻 浅川の一部	5	北部地域	豊野 長沼 古里
6	千曲川沿川地域	柳原 大豆島 朝陽	6	若槻・浅川地域	若槻 浅川
7	川中島・更北地域	川中島 更北	7	千曲川沿川地域	柳原 大豆島 朝陽
8	篠ノ井地域	篠ノ井の一部	8	川中島・更北地域	川中島 更北
9	松代・若穂地域	松代 若穂	9	篠ノ井地域	篠ノ井
10	豊野地域	豊野	10	松代・若穂地域	松代 若穂
11	西部山間地域	小田切 芋井 七二会 信更 浅川・篠ノ井の 各一部			
12	飯綱高原地域	芋井・浅川の各 一部	11	北部山間地域	芋井 浅川の一部 戸隠 鬼無里
13	戸隠地域	戸隠			
14	鬼無里地域	鬼無里			
15	大岡地域	大岡			
16	信州新町	信州新町	12	西部山間地域	小田切 七二会 中条 信更 大岡 信州新町
17	中条	中条			

新規

3. 現行計画の地域区分と改定後の地域区分重ね図



4. 地域別まちづくり構想の内容

地域別街づくり構想では、次の項目に沿って各地域の現況と特性を踏まえた整備方針を位置づける。

(1) 地域特性

地域の地理的・土地利用特性や人口動態について整理する。

(2) 地域の現況と課題

次の5つの項目について課題を整理する。

- ① 拠点の形成、都市機能
- ② 土地利用
- ③ 道路・交通
- ④ 自然及び都市環境、景観形成
- ⑤ 防災・安全

(3) 整備方針

街づくりの課題、全体都市づくり構想の各部門の基本方針や整備方針を踏まえ、各地域の街づくりの方向性（目標像、基本方針、重点施策等）を定める。また、住民アンケート、地域別懇談会、中間報告のパブリックコメント等が出された住民意向も考慮して策定する。

○地域の街づくりの目標

○地域の街づくりの基本方針

主として次の項目について、街づくりの基本的な整備方針をとりまとめる。

- ・拠点形成、都市機能の方針
- ・土地利用の方針
- ・自然及び都市環境、景観形成の方針
- ・道路・交通整備の方針
- ・防災都市づくりの方針

○その他

・地域の街づくりを進めていく上で、重点的な事業や整備目標が定まっている事項等がある場合は尊重する。

地域別街づくり構想（案）

1 長野駅善光寺口周辺地域（第3地区・第4地区・第5地区）

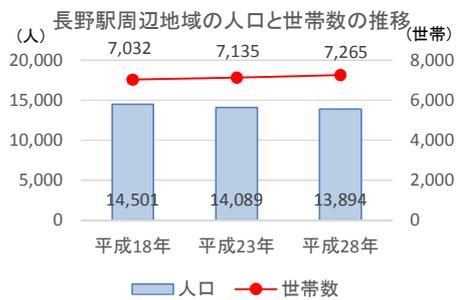
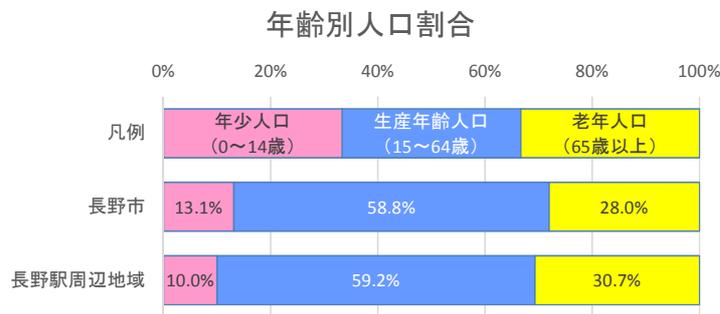
(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

北陸新幹線、JR 線、しなの鉄道線、長野電鉄などの主要な鉄道交通のハブ機能を備えた長野駅を中心とした交流の拠点と、県の中核、「**県都の顔**」としての都市機能が集積する地域。

広域拠点として、多様で高次の広域的な都市機能（市や長野県に唯一もしくは、北信エリアなど広域生活圏に一つあるような機能）が集積している。

居住人口は減少傾向にあり、居住者の高齢化も進んでいる。



住民基本台帳より作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

《拠点の形成・都市機能》

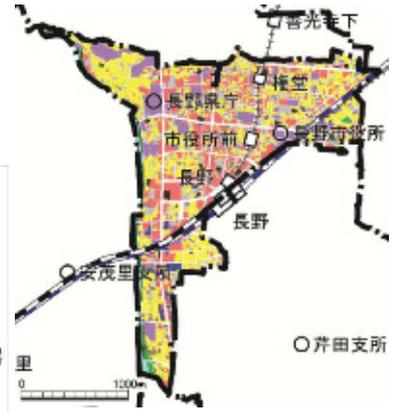
- ・既存の中心部は、大型店の撤退等、商業機能の郊外展開により商業地として求心力の低下が見られたが、再開発事業等新たな拠点の形成も進んでいる。
- ・北陸新幹線の金沢への延伸などにより、**広域拠点としての魅力**が増している。

(課題)

▶再開発事業等を核として、これと既存の都市機能の集積との一体性や連携を確保し商業等の活性化を図るとともに、都市基盤の再構築により、広域拠点として、「**県都の顔**」にふさわしい中心市街地の再生が必要である。

《土地利用》

- ・県庁や市役所周辺の業務地区と長野駅や中央通りを中心とした商業地区に区分される。
- ・長野駅周辺では再開発事業により土地の高度利用を図っているが未だ低・未利用地も多い。
- ・まちのにぎわいを持続的に支える商業活動の活性化のために、社会環境の変化などに適切に対応した土地利用が求められる。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成

(課題)

- ▶中心市街地の賑わいと活力の持続のため、生活利便施設などをより充実させ、まちなか居住の推進による住みやすい複合的な土地利用の誘導が必要である。
- ▶公共交通と連携したコンパクトな市街地の形成が必要である。

《道路・交通》

- ・交通セル方式(要注釈)の実現を目指して、中心市街地内の道路網の整備が行われてきた。
- ・中央通りの石畳化などの高質な空間整備と合わせて、にぎわいの創出空間としての役割が求められている。
- ・環状道路は完成したものの、補助幹線網の未整備箇所が多い。
- ・昔からの路地等も多く残っている。
- ・区画道路が未整備のため、土地利用が活性化しない区域がある。
- ・長野駅では門前回廊やペDESTリアンデッキを含む駅前広場の整備が完了し、長野の玄関口にふさわしい、シンボリックな空間や公共交通の結節機能の拡充が図られた。

(課題)

- ▶未整備の補助幹線道路網や駐車場の整備が必要である。
- ▶社会実験結果を検証し、中心市街地活性化を支える交通セル方式の実現化が課題である。
- ▶中央通りを軸として面的に広がる歩いて楽しい歩行者空間の整備が必要である。
- ▶街づくりと一体的な道路整備の実施が必要である。
- ▶老朽化した東西地下連絡通路や長野電鉄長野駅のコンコースなどの再整備が必要である。

《自然環境・都市環境・景観》

- ・中心市街地では緑や公園等の憩いの場が少ない。
- ・裾花川から引き込んだ水路の多くが暗渠化(要注釈)されている。

(課題)

- ▶中央通り沿道の街並み景観の形成が必要である。
- ▶公園、河川、公共施設が一体となった都市内の快適な環境の形成が必要である。
- ▶水路を活かした潤いのある都市空間の形成が必要である。
- ▶都市のブランド力を高めるため、歩道の石畳化など高質な都市空間の整備が必要である。

《防災・安全》

- ・中心市街地では老朽化した木造建築物が密集したり、耐震化が図られていない建築物もあり、救助、避難や消防活動等に支障がある地区が見られる。

(課題)

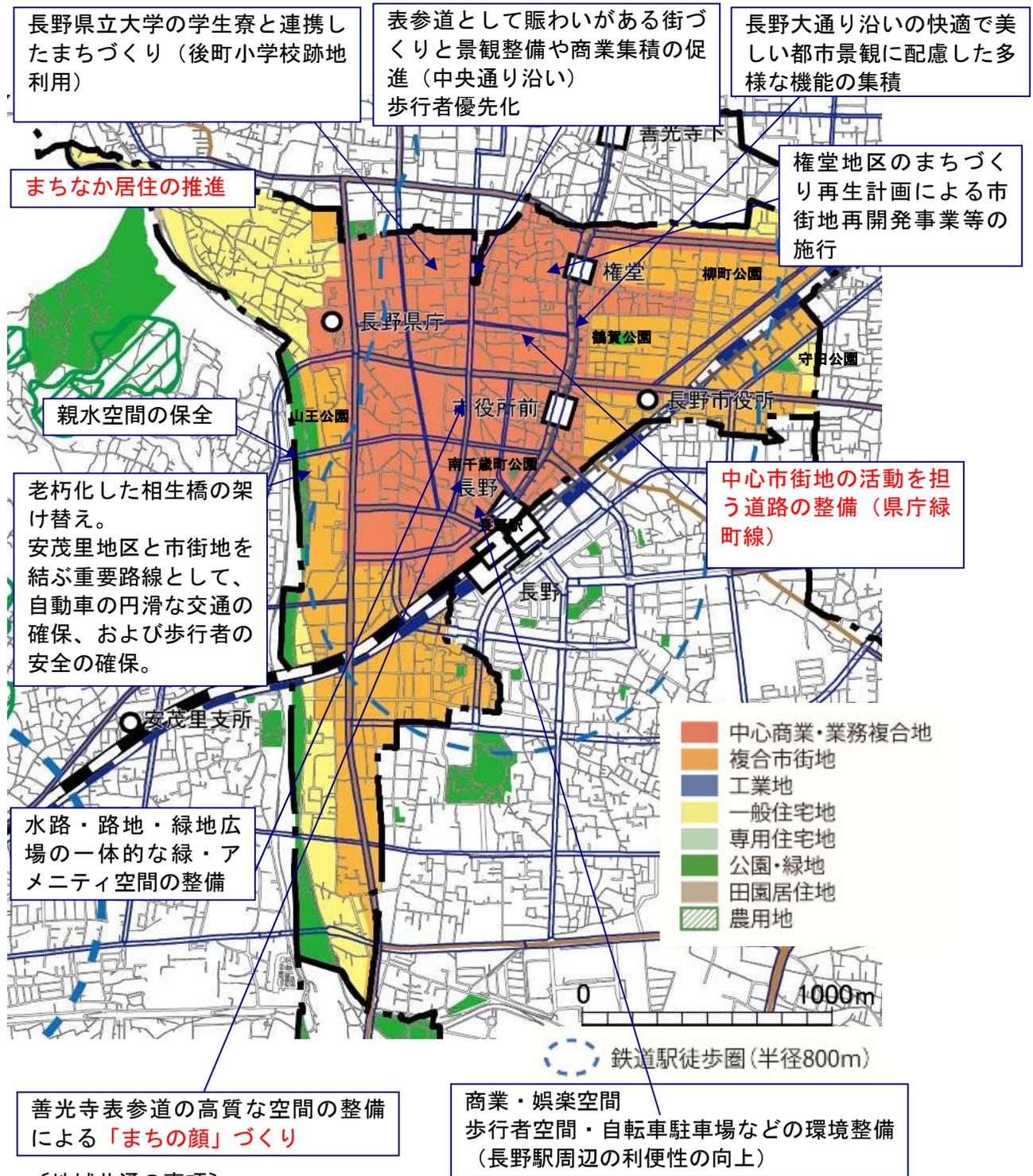
- ▶住宅密集地域における建築物の不燃化や、市街地における建築物の耐震化が必要である。

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	長野市及び北信地域の玄関口として多くの人を訪れ・交流する場としてふさわしい都市の顔づくりを進めるとともに、各種都市機能の集積並びにまちなか居住の推進により広域拠点としての充実を目指す。
------------	--

整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地では、長野のシンボリック空間や中枢的な機能の集積を活かし、既存の都市機能の充実と新たな機能の導入及び各機能の連携により「県都の顔」となる広域拠点づくりを進める。 ・ にぎやかな都心部を創出するため、商業機能の充実やまちなか居住を推進するとともに、中央通りを軸に水路、路地、緑地広場などと歩行者優先の道路でネットワーク化し、四季を通じて歩いて楽しい街づくりを進める。 ・ 地域内の特性に応じた土地利用を図るとともに、歩道や駅などの公共空間などのバリアフリー化、街路樹などによる潤いの向上、再開発などによる市街地の再生により利便性と快適性を感じられる良好な都市空間の形成を進める。 ・ 商業施設の新たな展開にあわせた、権堂地区の再生計画を進める。 ・ 立地適正化計画における都市機能誘導区域を指定し、広域拠点にふさわしい都市機能の維持、集積を図る。 ・ 県立大学学生寮を活かし、地域と連携したまちづくりを進める。 ・ 空き家の再利用や駐車場等の低未利用地を活用して、都市機能の誘導を図り、拠点性を高める。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央通り沿いの地域では、長野駅から善光寺にいたる表参道を軸に、歴史・文化を活かした歩行者優先の賑わいのある街づくりを進め、景観整備や商業の集積を図る。また、市街地の都市環境を活かし、地域の特性を考慮しながら、利便性や安全性を備えたまちなか居住の整備・推進を図る。 ・ 長野駅周辺や昭和通り、長野大通りなどの沿道地域においては、快適で美しい都市景観を持つ多様な機能が集積された地域として維持・充実を図る。 ・ 権堂地区では、中心市街地の賑わいの再生に向け、市民と協働によるまちづくり計画を定め、活性化に向けた取組みを推進する。 ・ 都市開発事業等と一体的に市街地の狭あいな道路の改善を図ることで広域の拠点にふさわしい土地の高度利用やストックの更新を誘導する。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街づくりと一体となった中央通りの歩行者優先道路化やバス等の公共交通と使いやすい駐車場整備（交通セル環状道路沿道での駐車場の立地と共通駐車券制度導入等）との連携、充実を図る。 ・ 官民が一体となった駐輪場整備や市街地の回遊性向上を目指す自転車レーン等のネットワーク化など自転車対策を充実する。 ・ 中心市街地の活動を担い、安全性や快適性にも配慮した道路の整備を図る。 ・ 県庁緑町線事業に合わせた沿道地区の一体整備を図る。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水路や路地空間を活かし、歩きたくなるような歩行者空間の整備を図る。 ・ 河川水路・緑地広場等の自然環境と様々な都市施設が一体となった都市内の快適な空間の整備を目指す。 ・ 長野駅周辺では市の玄関口にふさわしい街並み景観の形成を図る。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの人を訪れ、交流する場である広域拠点として、建築物の不燃化、耐震化を進める。 ・ 住宅密集地域については、道路などの基盤整備を進める。 ・ 震災時等に居住者や来街者が避難できる広場や避難所等を充実するとともに、誰もが安全に避難できるよう避難路のバリアフリー化などを進める。

【長野駅善光寺口周辺地域 整備方針図】



- 〔地域共通の事項〕
- ・ 中心市街地として、商業施設・各種都市機能の充実
 - ・ **まちなか居住の積極的な推進**
 - ・ 水路や路地空間を活かした歩行者空間の整備
 - ・ **中心市街地の活動を担う道路の整備**
 - ・ 市街地内幹線道路の整備
 - ・ 使いやすい駐車場の整備
 - ・ **建築物の不燃化、耐震化による防災性の向上**
 - ・ 震災時等に居住者や来街者が避難できる広場や避難所等の充実

2 善光寺周辺地域（第1地区・第2地区）

(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

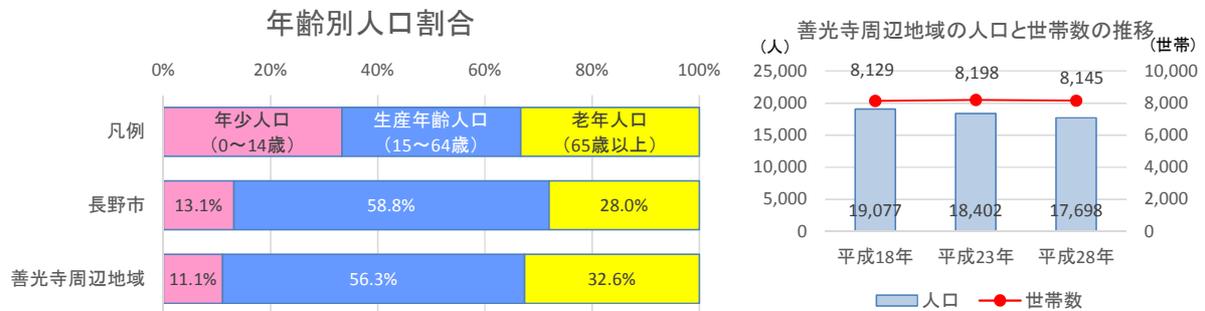
善光寺を中心に門前町として発展してきた地域。住宅を主体として商業集積や歴史的、文化的資源が多く存在する。

ひまわり公園の周辺などでは、国の合同庁舎など官公庁施設の集積があり、その中の旧施設跡地には、長野市消防局中央消防署も移転している。

善光寺に隣接する城山公園には美術館などが立地し、文化・芸術・レクリエーションの拠点となっている。

善光寺の背後の丘陵地では多くの住宅団地が形成されている。

居住人口は減少傾向にあり、居住者の高齢化も進んでいる。



住民基本台帳より作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

《拠点の形成・都市機能》

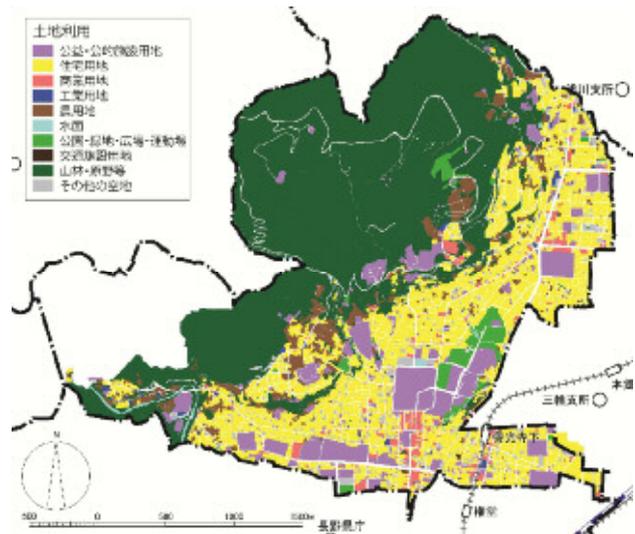
- ・善光寺は年間700万人(要確認)が訪れる県内有数の観光地であるが、観光客等は善光寺とその周辺に集中していることから、表参道や城山公園など周辺への回遊性の拡大が求められている。
- ・集積された官公庁施設の中には、今後、老朽化による更新が想定される施設がある。

(課題)

- ▶善光寺を中心とした観光や交流の拠点として、広域的な集客に対応した都市空間整備と周辺施設との連携確保により、回遊性の向上を図る。
- ▶官公庁施設の円滑な更新により、県都としての行政機能の維持とあわせ、施設の集約化等により生じる公的不動産を活用したまちづくりを積極的に推進する。

《土地利用》

- ・大門地区をはじめとして地区内には観光的商業機能が多数立地している。
- ・古くからの住宅地が多く、居住人口の減少が見られる。
- ・空き家、空き店舗など低未利用なストックがエリア内に多く存在する。
- ・市街地や善光寺の背後地は、緑豊かな山すその丘陵地が広がっている。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成
(都市計画区域外はデータがないため非表示)

(課題)

- ▶歴史、文化と自然を活かした商業・観光、住宅に供する土地利用の誘導が必要である。
- ▶高齢化や都市の空洞化等への対応として、まちなか居住地の整備による複合的な土地利用の誘導が必要である。
- ▶都市基盤が整った市街地であることから、ストックの有効な活用によるまちの活性化が求められる。

《道路・交通》

- ・地区内は狭い道路が多く、幹線道路の整備が進んでいないため、バスや通過交通が地区内道路に入り込んでいる。

(課題)

- ▶歴史、文化を活かした回遊性の高い歩行者空間の整備が必要である。
- ▶門前町としての来街者の利便性と回遊性を確保するため、**集約された拠点的な駐車場**が必要である。
- ▶**県内有数の観光地**として、道路、公共交通の整備やバリアフリーに配慮した交通基盤整備が必要である。

《自然環境・都市環境・景観》

- ・城山公園一帯は市の文化・芸術・レクリエーションゾーンとして公園、動物園、美術館等が立地し、憩いの場であるとともに、**山林や緑地等の貴重な自然環境が市街地近郊に残されている。**
- ・善光寺周辺は歴史、文化を活かした門前町としての街並みが形成されている。

(課題)

- ▶都市の風致や緑地の保全が必要である。
- ▶災害時の安全性の確保、**また自然や快適性の充実に配慮した環境整備**が必要である。
- ▶歴史、文化を活かした観光、商業地としての街並み・景観形成が必要である。

《防災・安全》

- ・善光寺周辺の住宅地には老朽化した木造建築物の密集地区が見られる。
- ・山すその丘陵地では一部土砂災害等の危険性がある区域にも開発が進んでいる。

(課題)

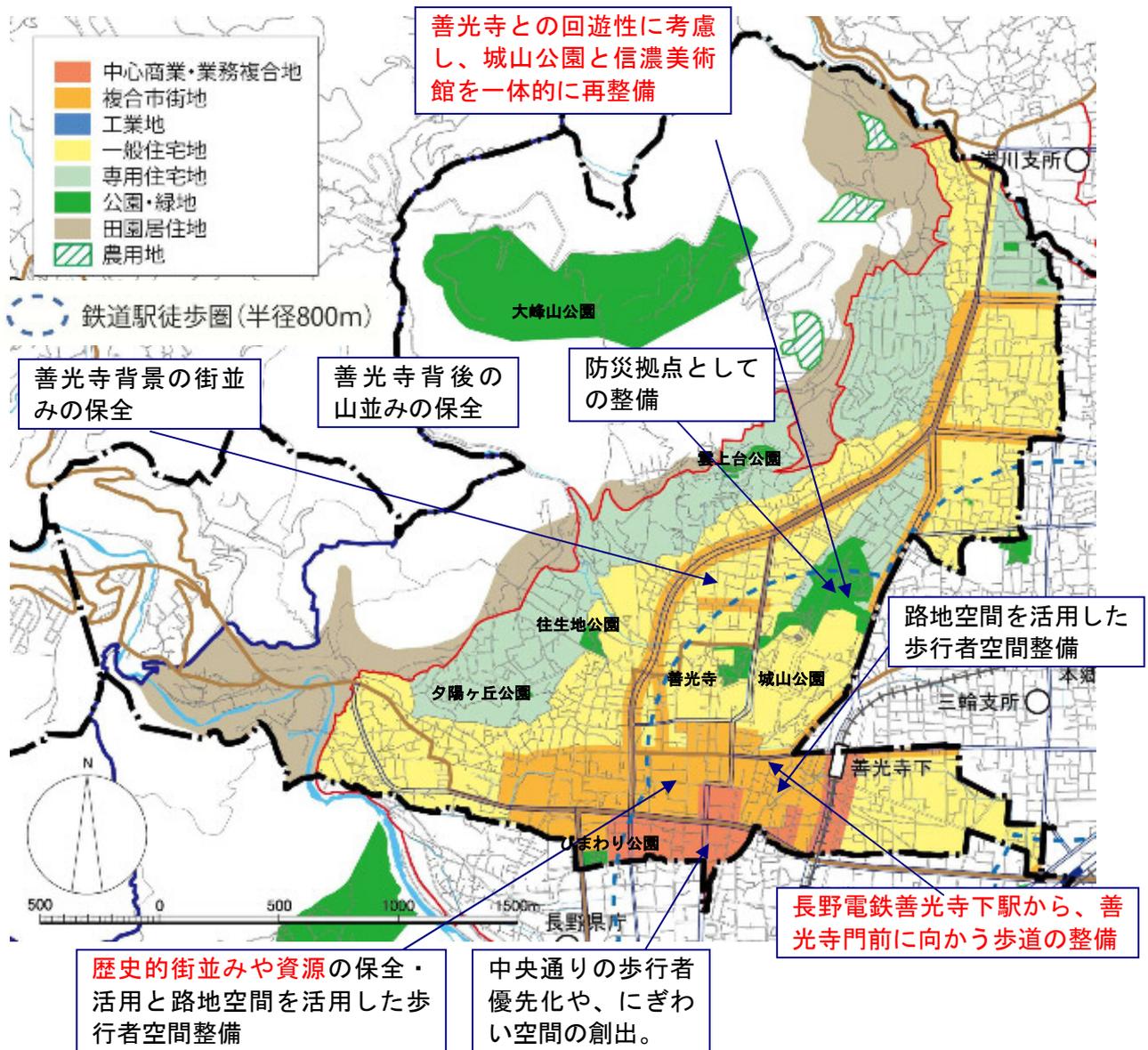
- ▶老朽化した木造建築物の密集地区においては**建築物の不燃化や耐震化**が必要である。
- ▶安全で緑豊かな住宅地として、防災性の確保が必要である。

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	善光寺に代表される歴史的・文化的資産を大切にして、 その周辺の施設や環境を活かし、歴史が感じられる街並みの形成を目指す。
------------	---

整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 善光寺の門前町として発展してきた地域の特性を活かし、歴史を伝える建物の保存や文化の継承とともに、歴史が感じられる街並みの地域づくりを進め、参拝者や観光客など多くの人が訪れ交流する拠点形成を図る。 城山公園一帯では、都市の貴重な緑地空間の保全を図るとともに、文化・芸術の拠点性を高め、広域的な文化・芸術・レクリエーション・防災等の機能が一体となった地域形成を進める。 立地適正化計画における都市機能誘導区域を指定し、広域拠点にふさわしい都市機能の維持、集積を図る。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> 善光寺周辺の歴史性や都市の貴重な緑地空間に配慮し、戸建住宅を中心に良好な景観や住環境向上のため、善光寺・城山らしい街並みづくりについて、風致地区制度等を活用して、きめ細かな街づくりを推進する。 市街地の背景となる山すその丘陵地では緑豊かで静かな住環境を維持するとともに、災害にも強い住宅地づくりを図る。 空き家などを活用したリノベーションまちづくりの推進や、公的不動産の活用による都市機能の誘導を図り、拠点性を高める。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> 善光寺を訪れる観光客が散策したくなるような回遊性の高い歩行者空間の形成を図る。 観光地の利便性の向上を図るとともに地区の生活を支える公共交通体系の整備と、善光寺周辺の歩行者道や自転車道のネットワーク化を進める。 善光寺周辺の住宅地では、安全性、快適性を確保するため、生活道路の整備を進める。 歴史的景観に配慮し、集約化した利便性の高い駐車場の整備を官民協働で図る。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 善光寺一帯に残された歴史的街並みや寺社、建築物、水路、路地等の資源を保存し、周辺の修景も含めた街並み整備を図るとともに、路地空間等を活かした歩行者空間の整備を進める。 善光寺背後の街並みや山並みを保全し、善光寺の背景となる景観の保全を図る。 城山公園一帯の自然環境を活かすとともに、文化・芸術・レクリエーションの機能を高める施設の再整備を図る。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> 木造建物の密集地区については、不燃化、耐震化を進めるとともに、避難路としての道路などの基盤整備を進める。 災害に強い地域づくりを進め、広域避難場所としての城山公園の防災機能強化を図る。

【善光寺周辺地域 整備方針図】



〔地域共通の事項〕

- ・ 善光寺一帯に残された歴史的街並みや歴史的資源の保全・活用
- ・ 景観に配慮した低層の都市型住宅地の整備
- ・ 住宅地での安全性、快適性に配慮した生活道路の整備
- ・ きめ細やかな街づくりの推進（風致地区制度、街並み環境整備事業による住民協定、伝統的建造物保存地区の検討）
- ・ 木造密集市街地での不燃化や耐震化、道路などの基盤整備

3 芹田・安茂里地域（芹田地区・安茂里地区）

(1) 地域特性と現況・課題の整理

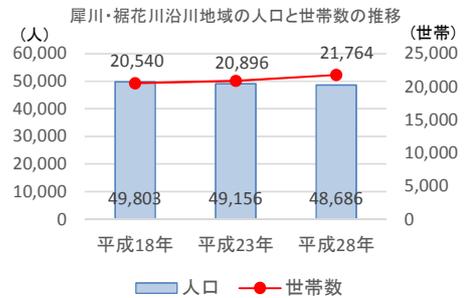
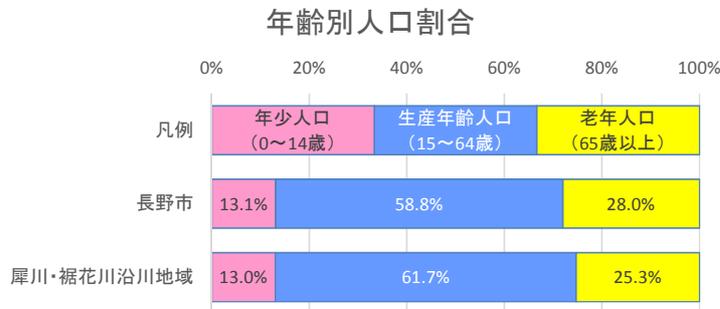
地域特性

長野駅の南側に広がり犀川までの芹田地区と裾花川を隔てた西側の安茂里地区は、中心市街地に近く住宅が多い地域である。

芹田地区の若里では、長野赤十字病院などの基幹的な総合病院や若里市民文化ホール、県立図書館が立地するなど広域的な公共施設等の集積が見られるほか、犀川沿川等では、郊外型の事業所等の非住宅のまとまった土地利用が見られる。

安茂里地区では、東は裾花川、南は犀川、北は山に囲まれ、山林、原野が多い一方、交通の便も良いことから、旧街道沿いを中心に宅地化が進んだ地区である。

人口は若干減少傾向にあるが老年人口の割合は比較的低い。



住民基本台帳より作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

《拠点の形成・都市機能》

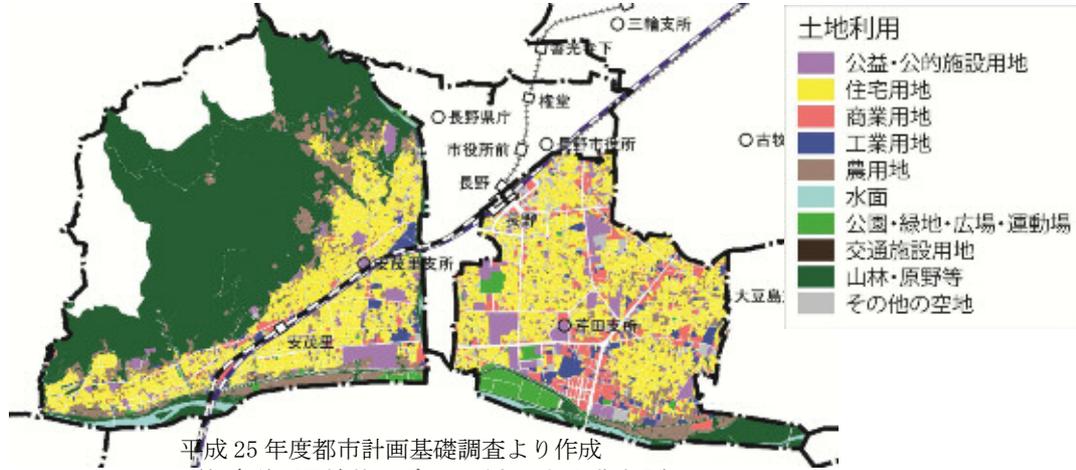
- ・若里公園周辺は、県民文化会館や図書館等が立地した文化ゾーンとなっている。
- ・長野赤十字病院など基幹的な総合病院が立地し、医療拠点となっている。
- ・ビッグハットをはじめとするコンベンション施設等も一帯に立地している。
- ・信州大学工学部等の学術研究拠点も立地している。
- ・安茂里駅周辺や国道19号沿線には、生活サービス施設等があり、地域内で日常生活を維持できる。

(課題)

- ▶既存施設の集積を活かして、技術や文化等の広域的な交流を育む拠点形成の推進と、それを支援する施設の充実や連携が必要である。
- ▶長野駅へのアクセスの良さを活かした都市基盤整備や、コンベンション施設におけるイベントやコンサートなどの開催により、地域の魅力発信や集客につなげる。
- ▶安茂里地区は、西部山間地域北部（小田切、七二会、中条等）と中心市街地を結ぶアクセスの拠点である。

《土地利用》

- ・長野駅東口地区は、土地区画整理事業の進展とともに、駅前には商業等の集積が進みつつある。
- ・幹線道路沿いや犀川に面した地区では、公共施設、郊外型の事務所、商業施設等のある程度敷地がまとまった土地利用が見られる。
- ・住宅地としての土地利用が多い。
- ・安茂里地区の裾花川沿川では、国内有数の大規模な食品工場が立地している。



(課題)

- ▶長野駅東口を中心に新たな顔としての都市空間、活力の場の形成が必要である。
- ▶長野駅に近接している立地を活かして、交通や多様な施設集積などの都市的な利便性の向上が必要である。
- ▶公園や歩道の整備、幹線道路のネットワーク化等、都市基盤の充実による住宅地の環境の向上が必要である。

《道路・交通》

- ・長野駅東口区画整理地以外は、面的な基盤整備がなされないで市街化した地域である。
- ・中心市街地に近いため、通過交通も多いが、幹線道路が不十分である。
- ・区画道路が未整備のため、土地利用が活性化しない区域がある。

(課題)

- ▶環状道路等の幹線道路の整備・充実が必要である。
- ▶生活道路等の改善や道路基盤の不足している地区での整備促進が必要である。
- ▶安茂里駅のバリアフリー化やアクセス性の向上、バス等の公共交通による地域内移動の確保などの利便性の向上が必要である。

《自然環境・都市環境・景観》

- ・犀川の北側には大規模な緑地が広がり、市民のスポーツ・レクリエーションの場として利用されている。
- ・市街地には水路等が見られるが、多くが暗渠化されている。
- ・中心市街地に最も近く、旭山や裾花川などの良好な自然景観が存在する。

(課題)

- ▶豊かな自然環境や多くの文化施設を活かし、保全と活用により都市環境の向上を図る。

《防災・安全》

- ・犀川や裾花川の沿川地区は水害の被害を受けやすい。
- ・安茂里地区では山すそに市街地が隣接しており、土砂災害の恐れのある箇所もある。

(課題)

- ▶水害や土砂災害に強い地域とするための防災施設整備や防災情報の提供を進める。
- ▶生活道路の改善による住宅地での防災性の向上が必要である。

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	学術・文化・産業等の機能集積を活かし、産学行（官）の連携や交流が活発に展開される拠点の形成と都市的利便性の高い良好な住宅地の形成を目指す。
------------	---

整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民文化会館、長野図書館、ビッグハット、若里市民文化ホール等のコンベンション施設、若里公園の都市機能集積を活かし、長野駅善光寺口周辺地域と合わせて長野の都市的魅力を高めるとともに、これらの機能の連携を強化し、文化、交流の広域拠点の形成を図る。 ・ 長野赤十字病院をはじめとする福祉・健康・医療関連施設や信州大学工学部、長野市ものづくり支援センター等と連携し、医療、教育、研究機関の拠点として、超高齢社会を支える医療・福祉や生涯学習に対応した、安心と生きがいを感じられる地域づくりを進める。 ・ 市街地の輪郭を形成する犀川、裾花川を保全し、それらの自然環境と調和した都市空間の形成を図る。 ・ 芹田地区では、立地適正化計画における都市機能誘導区域を指定し、広域拠点にふさわしい都市機能の維持、集積を図る。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若里、栗田、安茂里、稲葉地区などの住宅地では、中心市街地と連絡し利便性の高い住居系の土地利用を誘導し、公園、河川緑地の整備、道路や宅地の緑化を進め、潤いの感じられる良好な住環境の形成を図る。 ・ 東通りから国道 117 号周辺に至る地区及び安茂里の国道 19 号周辺地区では、住環境に配慮しつつ、中心市街地に隣接した立地を活かし、文化・交流機能や住宅・商業・業務などの機能が複合した土地利用を誘導する。 ・ 国道 117 号、国道 18 号等の幹線道路沿いは、周辺住宅地の生活利便性向上に対応した商業・業務機能の適切な土地利用を誘導する。 ・ 犀川沿いの川合新田などの工業地は、敷地内の緑化を進め環境に配慮した潤いの感じられる土地利用を図る。 ・ 駅東口の地域では、土地区画整理事業を促進し、新たな商業・業務機能の集積と良質な住宅地の整備を図る。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地への通過交通の流入を抑え、中心市街地内の交通渋滞を緩和する幹線道路の整備、既存住宅地内の生活道路の改善を図る。 ・ 既存の橋周辺の渋滞解消や犀川を挟んだ南北間の連携強化方策の検討を行う。 ・ 老朽化した相生橋の架け替えと併せて、歩行者空間の確保、円滑な車両の通行を図る（山王小柴見線）。 ・ 安茂里駅では、周辺住宅地の生活拠点としての役割強化を図る。 ・ 住宅地等から長野駅や長野赤十字病院へのアクセスを確保するための公共交通の利便性を向上させる。 ・ 東口の土地区画整理事業を促進するとともに、地域内外の連絡を強化するため、市街地内幹線道路（駅南幹線、七瀬居町線、栗田屋島線等）の整備を図る。 ・ 国道 19 号の歩道の整備を進める。 ・ 市街地の回遊性向上を目指し、自転車レーン等のネットワーク化など自転車対策を充実する。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水路沿いの親水性に配慮した緑豊かな歩行者ネットワークの形成を図る。 ・ 若里公園を緑の拠点やオープンスペースとして、地域の環境保全に活用するとともに、県民文化会館、図書館などの拠点的な施設と連携し、文化・交流拠点の強化を図る。 ・ 裾花川沿川や犀川沿川では、市民の憩いの場として整備された河川緑地等の保全を図り、サイクリングロードや緑、レクリエーション空間として河川敷きの活用と自然環境の保全を図る。 ・ 犀川・裾花川沿いの工業地では敷地内の緑化を図り、緑豊かな空間づくりを進める。

防災都市づくり方針

- ・既存住宅地の生活道路整備等により地域全体の防災能力の強化を図る。
- ・若里公園一帯は、防災の拠点としての機能強化を図るとともに、防災能力の強化のため周辺道路整備を進める。
- ・安茂里地区では山すそに市街地が隣接しており、特に土砂災害に対する防災機能の強化を図る。

4 東部地域（古牧地区・三輪地区・吉田地区）

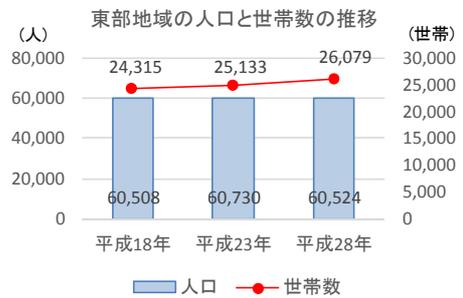
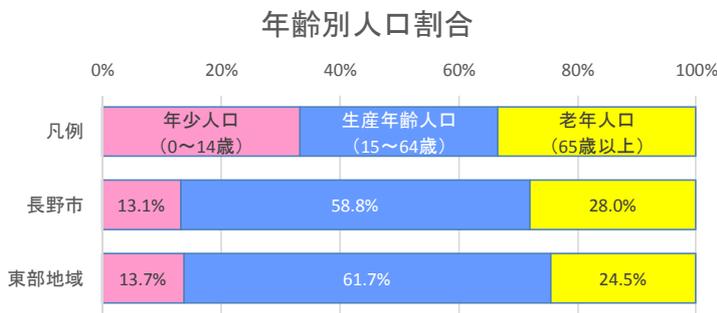
(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

中心市街地の東部に位置し、地域の北端は浅川である。古くから市街地が形成されていた地域で、市街地密度も高く、住宅やその他の用途の混在した地域である。

古牧地区では、国道 18 号・19 号などの幹線道路沿いに商業施設が集積している。三輪地区では、住宅地としての土地利用が大半であるが、高等学校や大学・専門学校などの文教施設も多く立地している。吉田地区では、北長野駅周辺での再開発事業等により拠点的な街づくりが進んでいる。

人口はほぼ横ばいであり、老年人口の割合も低い。



住民基本台帳より作成（平成 28 年 5 月 1 日時点）

現況と課題

《拠点の形成・都市機能》

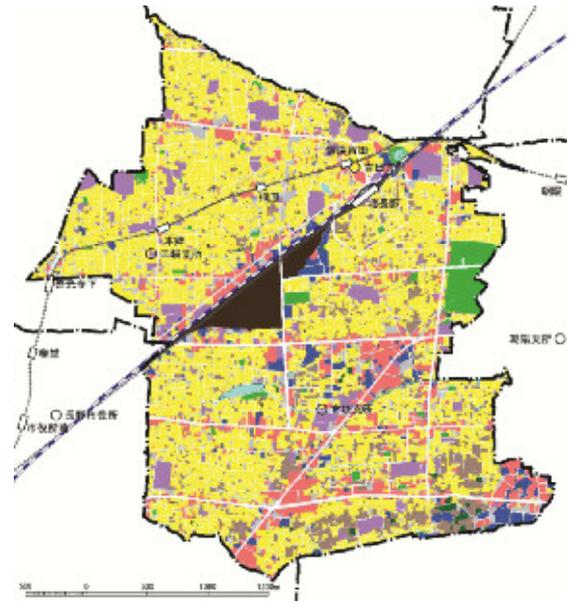
- 北長野駅周辺では再開発事業により拠点性が高まったが、道路や駅前広場などの交通施設整備が不十分な地区もある。

(課題)

- 北長野駅周辺は、市内北部エリアの中心として商業の集積と併せ、駅前広場などの都市基盤の整備や周辺の道路の整備等による、拠点性の向上が必要である。
- JR 線・しなの鉄道線の北長野駅と長野電鉄、信濃吉田駅が近接しており、相互の乗り換えや他の交通機関への乗り換への機能など地域拠点としての公共交通の利便性の向上が求められる。

《土地利用》

- ・ 駅周辺や幹線道路沿道等を除き、低層である程度区画の整った住宅地が形成されている。
- ・ 都市基盤が不十分な住宅地区や工場が混在している地区も残っている。
- ・ JR 線・しなの鉄道線沿いやSBC通り、北長野通り沿道には工場や事業所、商業施設等が立地している。
- ・ 住宅地としての土地利用割合が高い。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成

(課題)

- ▶ 市内北部エリアの地域拠点として、北長野駅周辺での商業等の集積を誘導し、駅周辺の立地条件を活かした土地の高度利用が必要。
- ▶ 住宅地や工場が混在する地域では既存産業の機能を確保しながらオープンスペースの緑化等を進め、市街地の環境整備が必要である。
- ▶ 住宅用地が多いことから、今後空き家の発生が予想されるため、適切な土地利用の更新が必要である。

《道路・交通》

- ・ 北長野駅周辺地区の一部等を除くと、都市開発事業等による面的な基盤整備がされていない。
- ・ 東北ぐるりん号（循環バス）の運行が開始され地域内循環の利便性が高まった。
- ・ 古牧地区では市街地南北を結ぶ補助幹線道路が未整備で、住宅地への通過交通の流入が問題である。また、地区内の幹線道路の交通量は非常に多く、渋滞が日常化している箇所がある。

(課題)

- ▶ 幹線道路の整備、充実を図るとともに、補助幹線道路や生活道路等の整備が必要である。
- ▶ JR、長野電鉄の駅へのアクセスの利便性の向上やバス等の公共交通による地域内移動の確保が必要である。
- ▶ 駅前広場の整備や交通施設のバリアフリー化などにより、公共交通の利便性の向上が必要である。

《自然環境・都市環境・景観》

- ・ 長野運動公園のような大規模な公園はあるが、住宅地内にはオープンスペースや緑地が少なく、市民が日常的に憩い、交流できる街区公園や近隣公園等が不足している。

(課題)

- ▶ オープンスペースや緑地の確保により、市街地の住環境整備が必要である。
- ▶ 市街地内に残る農地の緑地や空地としての機能を再評価し、都市農地などとして活用を図るほか、計画的な公園の整備が必要である。

《防災・安全》

- ・ 旧北国街道沿道は、かつての宿場町で比較的密集度が高く、老朽化した木造建築物等の防災上問題のある建物が連担している。

(課題)

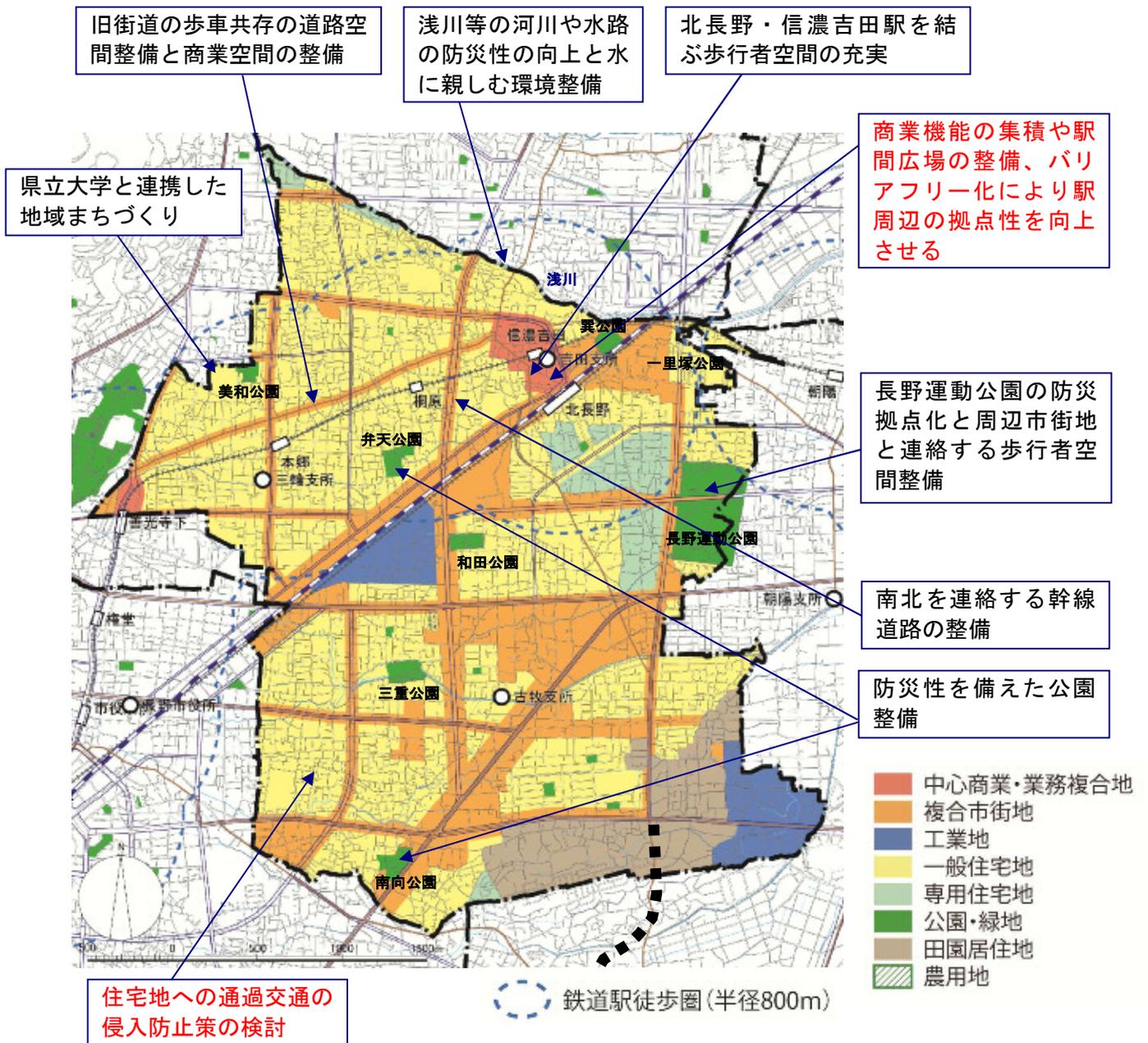
- ▶ 防災性を考慮した道路基盤整備とともに、身近な公園・空地の整備や住宅の不燃化等が必要である。
- ▶ 都市公園の整備を進め、避難地の確保が必要である。

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	<p>市内北部エリアの地域拠点として、北長野駅周辺の拠点性の強化と、既存住宅市街地としての地域特性に配慮し、歩いて暮らせる街づくりの核となる地区レベルでの基盤整備や住環境整備を進める。</p>
------------	---

整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 北長野駅・信濃吉田駅周辺は、行政機関や商業、業務施設など多様な機能の集積を活用し、公共交通の結節点との連携を強化することで、歩いて暮らせる街の拠点の形成を図る。 立地適正化計画において都市機能誘導区域を指定し、地域拠点にふさわしい都市機能の維持、集積を図る。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> 北長野駅・信濃吉田駅周辺は、市街地再開発事業等を活用した商業・業務・サービス機能の更なる集積を図り、都市型住宅を中心とした居住機能の確保を図る。 空き家などを活用したリノベーションまちづくりの推進などにより、適切な土地利用の更新を図る。 東豊線等の幹線道路沿いは、商業・業務・交流機能等の適切な集積を誘導するとともに、建物は沿道環境、景観への配慮を行う。 旧北国街道沿いなどの地区は、地域に親しまれてきた街並みを尊重し、近隣の生活を支える商業・サービス等と居住が複合した土地利用を誘導し、また地域拠点との連携や機能の分担を図る。 防災能力を備えた良好な住宅地の形成を図る。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> 北長野駅・信濃吉田駅の一帯は交通機関の乗り換えの利便性の向上や一体的な拠点とするため、線路横断地下道の再整備や安全で快適な歩行者空間の整備を図る。 幹線道路である高田若槻線の整備を進める。 住宅地等から駅や病院等へのアクセス向上のため、地域内循環交通の利便性を向上させる。 長野電鉄各駅のバリアフリー化の整備などにより、公共交通の利便性の向上を進める。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 既存の幹線道路沿いは街路樹等の充実を図り、緑のネットワークを確保する。 浅川をはじめ地域を流れる河川や水路について、身近な自然や潤いの場として親水空間の整備や維持保全を図る。 長野運動公園は、スポーツ・レクリエーションの拠点として充実を図るとともに、防災機能の整備を進める。 防災性を備えた憩いの空間としての公園整備（南向公園、弁天公園）。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> 浅川をはじめ地域を流れる河川や水路について水害から周辺の住宅地を守るための整備を進める。 長野運動公園は防災の拠点として整備を進め、周辺の住宅地の安全性を高める。 一般住宅地におけるオープンスペースの確保など防災性の向上を図る。

【東部地域 整備方針図】



〔地域共通の事項〕

- ・ 地域に点在する公園等は身近な緑やオープンスペースとしての整備を進め、道路空間の緑化等による緑のネットワークの形成を図る
- ・ 生活道路の改善や、オープンスペースの整備による良好な住宅地の形成

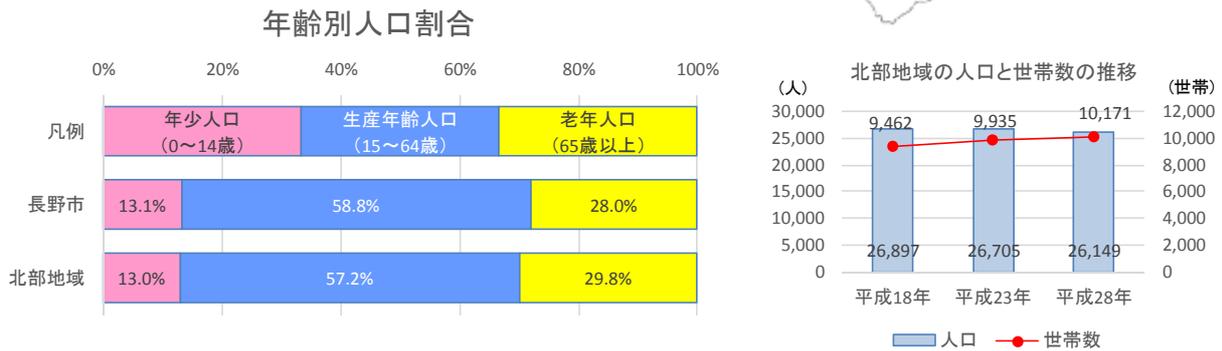
5 北部地域（豊野地区・長沼地区・古里地区）

(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

北西の山裾と南西の千曲川に挟まれた地域で北しなの線や国道18号線が地区の中央部を南北に通っている。豊野駅や三才駅を中心として北しなの線沿いに市街地が連担し、旧道沿いに田園集落が形成されている。その他はまとまった農地が広がっている。

人口は微減であり、世帯数は微増傾向にある。



住民基本台帳より作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

《拠点の形成・都市機能》

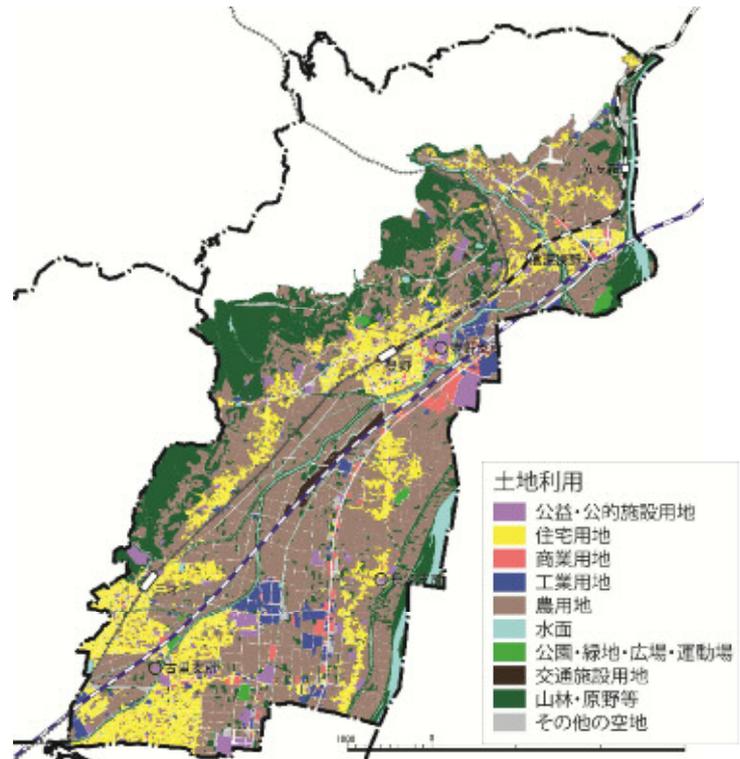
- ・豊野駅周辺では、市の支所や病院、日用品や食料品を販売する店舗などの集積が見られる。
- ・三才駅には駅前広場等の都市基盤が未整備で、目立った商業集積も見られない。

(課題)

- ▶ 商圏の広域化により、豊野駅周辺の商業集積の拠点性は低下傾向にあるが、鉄道駅周辺は特に地域住民の生活を支える重要な拠点として維持していく必要がある。
- ▶ 豊野駅や三才駅の周辺エリアでは、交通の拠点性を向上させるため都市基盤整備が求められる。
- ▶ 農業的な土地利用が主要なエリアでは、人口減少による集落維持の取組みが求められる。

《土地利用》

- ・豊野地区の西部を南北に縦断する旧街道沿いには古くから発達した集落が広がっている。
- ・山すそから平坦地にかけて果樹園等の農地が広がり、集落が点在している。
- ・豊野駅北東部には工場等が集積している地区がある。
- ・国道 18 号沿いのエリアには、スーパー、ホームセンターなどの生活利便施設の立地が見られる。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成
(都市計画区域外はデータがないため非表示)

(課題)

- ▶ 良好な農業基盤の保全と集落の環境改善による良好な住環境の創出を図る。
- ▶ 農業と共存した緑豊かな環境の保全や秩序ある土地利用を進める必要がある。
- ▶ 既存市街地の縁辺部は、農業的土地利用と都市的土地利用の調整を図る必要がある。
- ▶ 幹線道路沿線の無秩序な開発による交通機能の阻害に配慮が必要である。
- ▶ 生活拠点や生活中心地を強化するため、駅周辺や集落内に生活に必要な施設の立地等を検討する。
- ▶ 農業的土地利用が主の地区では、体験型農業や 6 次産業化など農業の振興に必要な施設の立地などを検討する。

《道路・交通》

- ・国道 18 号をはじめ県道等が市街地に並行している。また地域の北側には広域農道も整備されている。
- ・豊野駅を取り囲み、鉄道で分断される南北の市街地を一体化する環状道路を都市計画道路として位置づけている。
- ・三才駅の駅前広場や駅に接続する幹線道路等が未整備である。
- ・丘陵部の病院や大学等の公共施設や文教施設へつながる道路整備が不十分である。

(課題)

- ▶ 市街地と集落を結ぶ幹線道路や生活道路の整備による地域の利便性の向上を図る。
- ▶ 豊野駅・三才駅の施設のバリアフリー化や、駅前広場や駐車場などの整備が必要である。
- ▶ 北部幹線等の広域的な交通網の一部を担う幹線道路の整備や生活道路の整備が求められる。

《自然環境・都市環境・景観》

- ・豊野地区の北西部は標高 500m 台の緩やかな丘陵地帯が南東に広がっている。
- ・集落を挟む平坦地と山すそには、果樹園等による良好な景観が広がっている。
- ・長沼地区には、りんごを中心とした多様な農産物を生産する農地が広がっている。
- ・農業的土地利用のエリアにおいて、沿道型商業店舗の立地や無秩序な市街地の外延的な拡大により、街並みや自然景観への影響が見られる。

(課題)

- ▶優良農地の維持・保全を進めるとともに、美しい農村景観の維持が重要である。
- ▶森林については、自然の保全や森林環境を活用した散策・スポーツレクリエーションなどの利用により、健全な森林環境の維持が必要である。
- ▶川や山、緑などの自然やまとまった優良農地が残されており、これらの保全と活用が求められ、農業の振興に必要な施設の立地について検討が必要である。
- ▶幹線道路沿いの良好な景観形成への誘導が必要である。

《防災・安全》

- ・標高の低い地域であり、地域内の市街地内に鳥居川や浅川等が流下している。
- ・大雨時には内水排除に苦慮している
- ・千曲川沿川の長沼地区では、過去に浸水被害を広範囲に受けている。

(課題)

- ▶鳥居川・浅川等では水害に対応する防災、治水、排水対策が重要である。
- ▶浸水対策の強化が必要である。

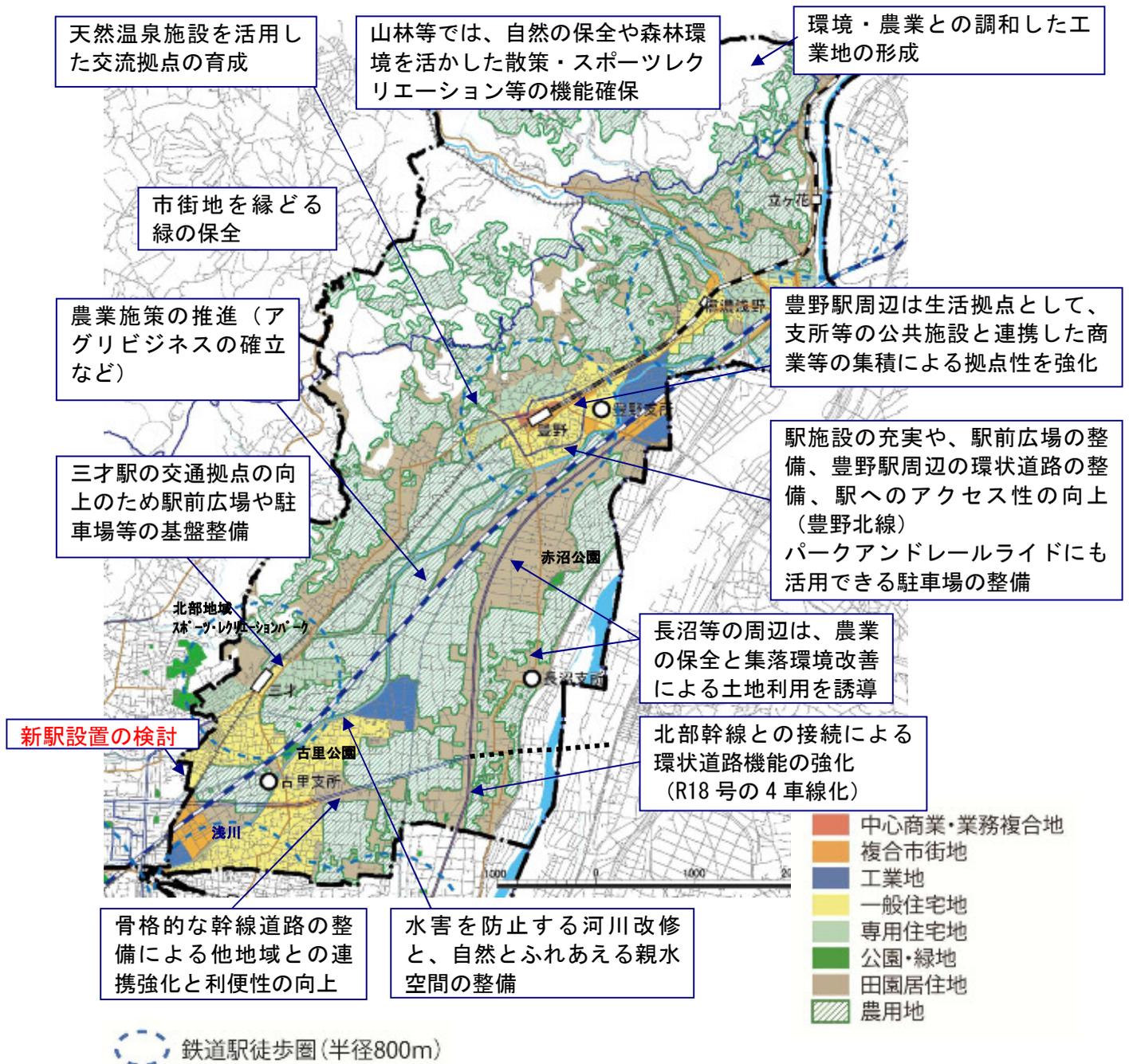
(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

<p>地域の街づくりの目標</p>	<p>長野市の北の玄関口として、千曲川沿岸の水辺と緑を活かした潤いのある環境と利便性を兼ね備えた居住地の形成、多様な農産物を生産する地域として農業や交流が活性化する街づくりを目指す</p> <p>緑豊かな良好な住宅地と農業が調和し、日常生活支援機能を維持し、便利で安全な地域形成を図るとともに、集落の保全を図る。</p>
-------------------	---

整備の方針	
<p>拠点の形成・都市機能形成方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊野駅周辺は、地域生活を支えていく生活拠点として、駅周辺の公共施設とも連携した、商業やサービス機能の集積を促進し、拠点性の強化を図る。 ・北しなの線や国道の沿線に位置する交通上の利点を活かし、くだもの栽培を通じた体感型観光等のアグリビジネスの拠点形成を図る。 ・天然温泉施設「りんごの湯」を活用した観光・交流の拠点形成を図る。 ・自然に恵まれた環境のなかで、農業等と生活が一体化した地域づくりを進めるとともに、市街地の無秩序な拡大を防ぐ。 ・生活利便施設の立地が集積している、北部幹線、高田若槻線、国道 18 号線等の広域幹線道路の沿線エリアと既存集落などの居住地とを交通ネットワークにより結び、生活利便性の確保を図る。
<p>土地利用方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊野駅南側の準工業地域は、駅前の立地を活かし、駅北側や豊野支所をはじめとする駅周辺の公共施設と連携した商業等の集積を図る。 ・豊野地区全体では、農業等と都市的な土地利用が共存した緑豊かな環境の確保や秩序ある土地利用を進める。 ・特に市街化調整区域では、農業的土地利用や自然環境に配慮した土地利用を維持する。 ・既存の住宅地では、良好な住環境を活かしたゆとりある戸建て住宅を中心とした緑豊かな住宅地の形成を図る。 ・長沼地区は、良好な農業基盤の保全と集落環境改善による、田園的土地利用を維持する。
<p>道路・交通整備方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市軸を形成する幹線道路の整備・維持を図るとともに、市街地と集落を結ぶ道路や住宅地内の生活道路の充実により、地域の交通利便性と居住環境・安全性の確保を図る。 ・豊野駅周辺を取り囲み、鉄道で分断される南北の市街地を一体化させる環状道路（沖第 2 線）の整備を進める。 ・豊野駅・三才駅周辺では、駅前広場、駅施設の充実や、駅周辺の街路、パークアンドレールライドにも活用できる駐車場の整備を図る。 ・広域的な交通処理を担う外環状道路網の一部として、北部幹線の整備を進める。 ・三才駅と豊野地区との連携を強化するような道路の整備を図る。 ・丘陵地に形成される住宅地や公園と幹線道路との連絡性を強化するための新たな補助幹線道路の整備を進める。 ・須坂市との連携を強化する方策を検討する。

<p>自然環境・ 都市環境・ 景観形成方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・優良農地の維持・保全を進め、美しい農村や水辺の景観形成を図る。 ・森林等では、自然の保全や森林環境を活かした散策・スポーツレクリエーション等の利用により良好な森林環境を維持する。 ・昭和の森公園、北部スポーツレクリエーションパーク等の連携を強化し、スポーツレクリエーションの交流拠点として一体的な活用を図るとともに、地域住民の憩いの場となる公園等のオープンスペースの整備を進める。 ・浅川、駒沢川等では、自然の保全と自然とふれあう親水空間の整備を進める。
<p>防災都市づくり方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水害等の災害を防ぐため、治水・排水施設の整備など、総合的な取組みにより、安全な街づくりを進める。 ・千曲川、浅川、駒沢川等では、水害を防ぐ河川改修を行う。

【北部地域 整備方針図】



〔地域共通の事項〕

- ・ 交通上の利点を活かし、くだもの栽培を通じた体感型観光等の拠点形成を図る
- ・ 農業等と都市的な土地利用が共存した緑豊かな環境の確保や秩序ある土地利用
- ・ 優良農地の維持・保全を進め、美しい農村や水辺の景観形成
- ・ 市街地と集落を結ぶ道路や住宅地等の生活道路の充実
- ・ 水害等の災害を防ぐため、治水・排水施設の整備をはじめとして、総合的な取組みにより、安全な街づくり
- ・ 公園等のオープンスペース整備を進め、緑豊かな良好な住宅地の形成と自然環境の保全を図る

6 若槻・浅川地域（若槻地区・浅川地区の一部）

(1) 地域特性と現況・課題の整理

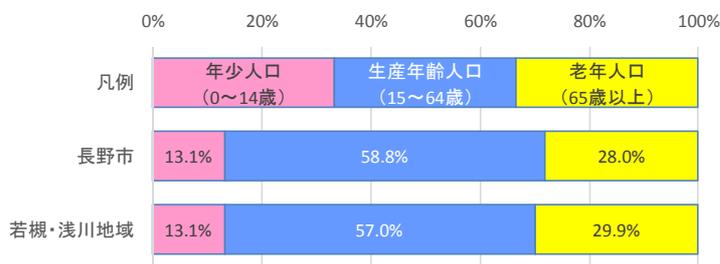
地域特性

市域の北端から、浅川の右岸までのエリアで、中山間地域と平坦地域の双方を併せ持つ。平坦部では、経済成長期からの継続的な宅地開発により、良好な戸建て住宅地が整備されている。また、まとまった農地が広がるエリアや中山間地域の集落も包括する多様性に富んだエリアである。

人口は微減であり、世帯数は微増傾向にある。



年齢別人口割合



(人) 若槻・浅川地域の人口と世帯数の推移 (世帯)



住民基本台帳より作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

《拠点の形成・都市機能》

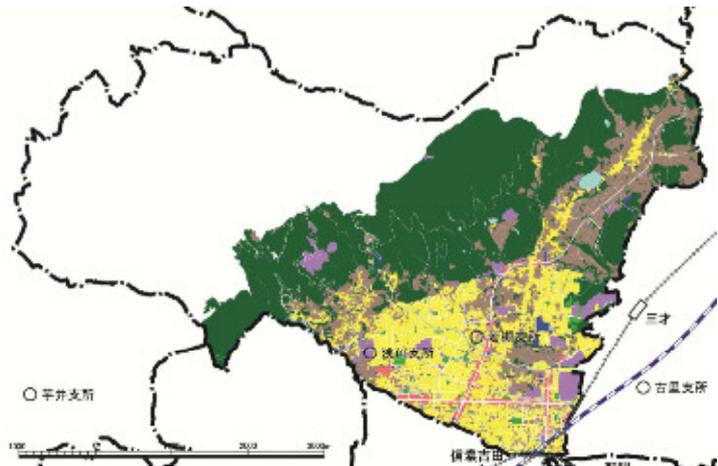
- ・ 幹線道路（北部幹線、高田若槻線など）の沿道では、商業施設や生活利便施設の立地集積があり、拠点性が高まっている。
- ・ 浅川団地、若槻団地などの高度経済成長期に造成した住宅地や、北部幹線の沿線に近年造成された住宅地など比較的大規模な住宅団地が多い地区である。
- ・ 高田若槻線のSBC通りと北長野通りとの区間が開通することで、東部地域（北長野駅周辺エリアや古牧地区など）との連携の強化が見込まれる。

(課題)

- ▶ 生活利便施設の集積により、拠点性が増した幹線道路沿いのエリアへの自家用車以外の公共交通によるアクセスを向上させ、近隣の住宅地とのネットワークの形成が求められる。
- ▶ 地域北部の中山間地域から、生活利便施設が立地する拠点エリアへのネットワークが必要である。

《土地利用》

- ・土地区画整理事業等で整備された高田若槻線や北部幹線等の幹線道路沿いには郊外型の商業施設やサービス業等の進出が顕著である。
- ・大規模な一団の戸建て住宅地などは、用途地域による建築制限により日用品販売店が徒歩圏内に立地できない地区がある。
- ・浅川地区では、築 30～40 年の建築物の割合が非常に高く、今後一斉に土地利用更新の時期を迎えることが予想される。
- ・北部の丘陵地には山林や果樹園などに集落が点在している。



土地利用	
■	公益・公的施設用地
■	住宅用地
■	商業用地
■	工業用地
■	農用地
■	水面
■	公園・緑地・広場・運動場
■	交通施設用地
■	山林・原野等
■	その他の空地

平成 25 年度都市計画基礎調査より作成
(都市計画区域外はデータがないため非表示)

(課題)

- ▶ 幹線道路沿いの開発による、無秩序な沿道立地により、道路の交通機能を損なわないよう、計画的な立地を誘導していく必要がある。
- ▶ 生活の利便性や生活拠点を強化するため幹線道路沿いの計画的な市街地の形成が必要である。
- ▶ 大規模住宅地では、良好で静かな住環境との調和を図りつつ、高齢化による生活スタイルの変化に対応するため、コンビニエンスストアなど日用品の販売店の立地を可能とする用途規制の見直しが必要である。

《道路・交通》

- ・大学、短大等の公共施設や文教施設へつながる道路整備が不十分である。

(課題)

- ▶ 北部幹線等、広域的な交通網の一部も担う幹線道路の整備や拠点間を結ぶ道路や生活道路等の整備が求められる。
- ▶ 中山間地域の集落での生活を維持するため、生活拠点エリアへの乗合タクシーなどの効率的な移動手段の確保が必要である。
- ▶ **生活拠点と都市拠点である都市中心部への公共交通ネットワークの確保が必要である。**

《自然環境・都市環境・景観》

- ・近年の市街化の中には小規模な開発地も多く公園等の整備が不十分な場所も見られる。
- ・昭和の森公園等が立地しているが、周辺の道路整備が不十分である。
- ・郊外の沿道型商業店舗の立地集積や無秩序な市街地の外延的な拡大により、街並みや自然景観への影響が見られる。

(課題)

- ▶ 地域内には、川や山、緑などの自然環境やまとまった農地が残されており、これらの保全と活用が求められる。
- ▶ 幹線道路沿いの良好な景観への誘導が必要である。

《防災・安全》

- ・山すそに住宅地が迫っており、土砂災害発生の恐れもある。

(課題)

- ▶ 浸水対策の強化が必要である。

▶周辺の丘陵地や山間部では、自然の保全と防災性を強化する必要がある。

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	緑豊かな良好な住宅地と農業が調和し、日常生活支援機能が集積する生活拠点の形成により、便利で安全な地域形成を図る。
------------	--

整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に恵まれた環境のなかで、農業等と生活が一体化した地域づくりを進めるとともに市街地の無秩序な拡大を防ぐ。 ・北部幹線、高田若槻線等の広域幹線道路の沿道では、良好な景観を備えた建物を誘導し、周辺的生活利便性を強化する機能集積の誘導と公共交通充実による利便性の高い市街地の形成を図る。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の住宅地では、良好な住環境を活かした緑が豊かでゆとりある戸建住宅を中心とした住宅地の維持とともに、小規模な店舗（コンビニエンスストア等）の立地を可能とする土地利用規制の見直しを検討する。（既存住宅地の保全・育成を図る） ・丘陵地帯では、農業や自然が生活と融合し、災害に強く安心して暮らせる里山居住地の形成を図る。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・広域的な交通処理を担う外環状道路網の一部として、北部幹線の整備を進める。 ・丘陵地に形成された住宅地や公園と幹線道路との連絡性を強化するための新たな補助幹線道路の整備を進める。 ・丘陵地や山間部では市街地との連携を強化する道路の整備を進める。 ・北長野駅～三才駅の区間において、公共交通の利便性向上と路線利用者の拡大による活性化を目的とした新駅設置を検討する。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の憩い、潤いやスポーツの拠点となる公園等の緑とオープンスペースの整備を進め良好な住環境の形成と自然環境の保全を図る。 ・丘陵地や山間部は農林業の振興や、市街地縁辺部の豊かな自然や景観の保全のため、無秩序な市街化を防止し、農林地の育成や自然環境の保全を図る。 ・浅川、駒沢川等では、自然の保全と自然とふれあう親水空間の整備を行う。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> ・丘陵地や山間部では、地すべりやがけ崩れ等の災害に強い地域づくりを進める。 ・浅川、駒沢川等では、水害を防ぐ河川改修を行う。

【若槻・浅川地域 整備方針図】

農業と融合した里山居住地の防災性の強化と、隣接市街地と連携を強化する道路などの整備

農地の保全とアグリビジネスの展開を図る



〔地域共通の事項〕

- ・ 良好な住環境を活かした戸建て住宅を主体とした住宅地の形成
- ・ 公園等のオープンスペース整備を進め、緑豊かな良好な住宅地の形成と自然環境の保全を図る
- ・ 丘陵地や山間部では、地域の防災性の強化を図る
- ・ 浅川、駒沢川等では、水害を防ぐ河川改修を図る

7 千曲川沿川地域（柳原地区・大豆島地区・朝陽地区）

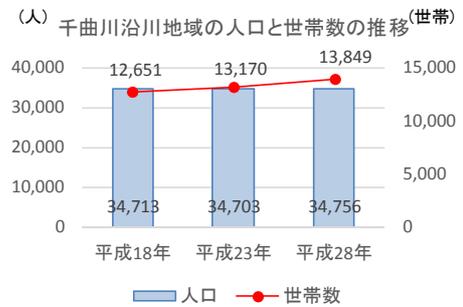
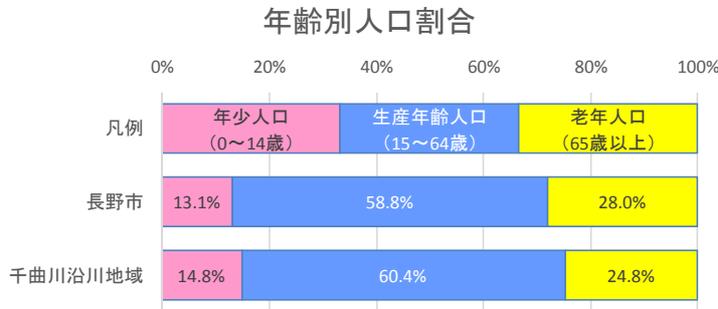
(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

市東部の千曲川沿いに広がる地域で、柳原・朝陽地区では、長野電鉄沿いや主要幹線道路沿いには市街地が、千曲川沿いには農村集落地域が広がる。

大豆島地区では、市街地の拡大が先行し、幹線道路などの都市基盤の整備が遅れている。

人口は横ばい傾向である。年少人口の割合が高く、老年人口の割合が低い。



住民基本台帳より作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

《拠点の形成・都市機能》

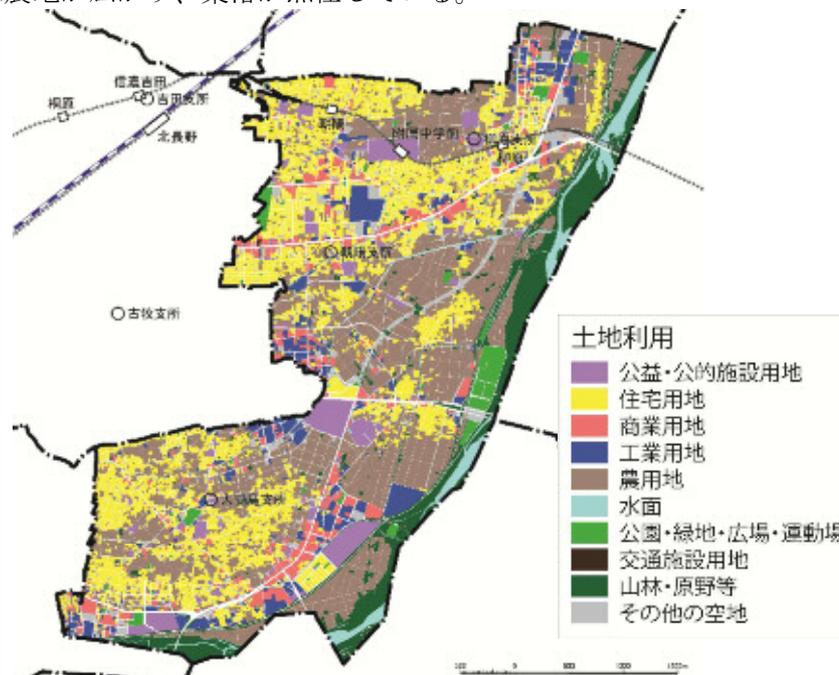
- ・スポーツ・レクリエーション拠点としての千曲川河川敷の千曲川リバーフロントスポーツガーデン、北長池のエムウェーブが整備されており、加えて大豆島地区では、健康・レジャー施設の整備が進められている。
- ・大豆島地区には、清掃センター・東部浄化センター等の都市基盤施設が整備されている。
- ・地域北側の隣接地区には、長野市民病院が建設され、健康・福祉関連施設が集積した地域となっている。

(課題)

▶比較的新しい住宅地として発展してきたため拠点性に乏しく、生活利便性の向上や交流、産業の活性化のため、既存施設の利活用を含め、特色ある拠点性を高めていくことが必要である。

《土地利用》

- ・地域北側の長野電鉄沿線や幹線道路沿いは市街地のスプロール化が進み、住宅地等が連担している。
- ・千曲川沿川地域は農地が広がり、集落が点在している。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成

(課題)

- ▶ 幹線道路沿いでは、店舗等の無秩序な立地による環境悪化の防止が求められる。
- ▶ 千曲川沿いや信州大学附属小学校・中学校の北側では、まとまった農地が残っており、農業と調和した土地利用が必要である。

《道路・交通》

- ・宅地化など市街地が急速に発展したため、幹線道路が未整備で生活道路も狭あいである。

(課題)

- ▶ 住宅地における幹線道路の整備や生活道路の改善が求められる。
- ▶ 地域の南部では、人口の集積に対して路線バスのルートが少なく、公共交通サービス水準が低い。

《自然環境・都市環境・景観》

- ・千曲川沿いでは、水田やりんご等のまとまった農地が広がり、河川敷内にも農地が見られる。
- ・幹線道路の整備により、沿道での環境の変化が懸念される。

(課題)

- ▶ まとまった農地は自然環境や生産空間として重要であり、これらの保全を図る必要がある。
- ▶ 幹線道路沿いでの環境保全や良好な景観への誘導が必要がある。

《防災・安全》

- ・千曲川沿いには低地が広がり、浸水の被害の恐れがあり、柳原・朝陽地区では過去に浸水被害が起きている。

(課題)

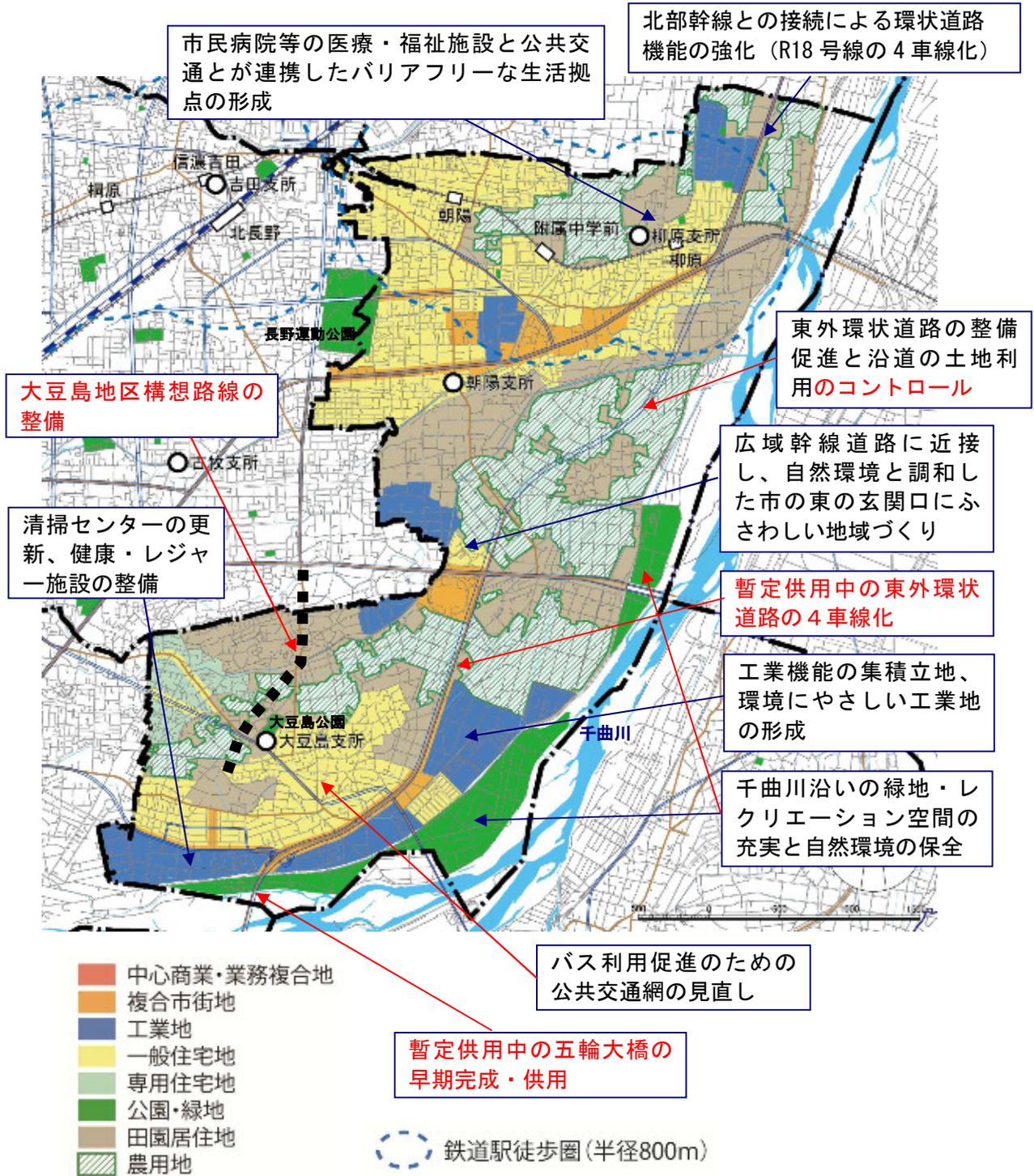
- ▶ 千曲川沿いでの浸水被害の軽減のため、防災性の向上を図る必要がある。
- ▶ 集落では、狭あい道路の改善などにより防災性の向上を図る必要がある。

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	市街地の無秩序なスプロールを抑制し、計画的な市街地形成を図るとともに、地域の生活利便性を高める拠点の形成と、自然と都市的機能が調和した安全で安心な地域づくりを目指す。
------------	---

整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路インターチェンジへのアクセスが容易であるという立地特性を活かし、自然環境とも調和した良好な景観整備を進め、長野市の東の玄関口にふさわしい地域づくりを進める。 ・長野電鉄の各駅周辺は、公共交通による北長野地域拠点や中心市街地へのアクセスが容易であることから、周辺住民の生活の中心となる生活利便施設の機能集積や交通と生活の拠点性を高める。 ・柳原駅周辺は、市民病院、保健センター等が近接して立地しており、医療・保健・福祉施設と公共交通機関が連携した生活拠点の形成を目指す。 ・清掃センター・東部浄化センターの周辺では、施設の存在が住環境の悪化に繋がらないよう環境に配慮した街づくりを進める。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・既存住宅地では、戸建て住宅を中心とした緑豊かでゆとりある良好な住環境を備えた住宅地の形成を進める。 ・国道18号、長野須坂インター線、東外環状線沿いの工業地では、周辺の住環境との調和にも配慮しつつ、交通利便性を活かした土地利用を進める。 ・千曲川沿い等の農地が残る地域では、農業の生産基盤としての農地の保全を図るとともに、農業と居住機能が調和した土地利用を維持するために、集落の環境整備を進めるとともに、市街地の無秩序な拡大を抑制する。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・東外環状線の整備を進めるとともに、周辺の環境と調和した沿道景観を誘導する。 ・東外環状線の暫定供用区間では、4車線化を進める。 ・バス交通との連携を図り、長野電鉄の各駅へのアクセス性を高める。 ・大豆島地区構想路線など地域内の幹線道路のネットワーク化により地域の交通利便性の向上を図るとともに、住宅地内の狭あい道路の改善を進める。 ・市民病院や柳原駅周辺は、歩行者空間等のバリアフリー化を進め、住環境の向上や防災能力の強化のため生活道路の充実を図る。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・千曲川沿い等の農地の保全や幹線道路沿道の景観誘導を図るとともに、その周辺の住宅地の住環境の維持保全を図る。 ・地域南部の千曲川沿いの工業地では、敷地内の緑化やオープンスペースを確保し、犀川・千曲川など周辺の自然環境との調和を図るとともに、公共施設を中心に広く人々が集う交流拠点として整備する。 ・千曲川沿いの緑地やレクリエーション空間の充実を図り、水と緑のネットワーク化を推進する。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> ・既存住宅地では、狭あい道路の改善、耐震補強の推進などにより防災能力の強化を進める。 ・水害等災害に強い街づくりや体制づくりを進める。

【千曲川沿川地域 整備方針図】



〔地域共通の事項〕

- ・千曲川沿い地域での水害等の災害に強い街づくり
- ・幹線道路沿道の景観誘導と農業と宅地が調和した住環境の整備
- ・生活道路の改善と緑やオープンスペースの整備による既存住宅地の住環境の向上
- ・千曲川沿いなどの農地の保全と市街地の無秩序な拡大の抑制

8 川中島・更北地域（川中島地区・更北地区）

(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

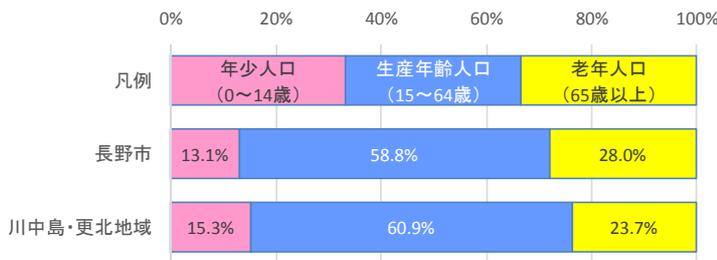
犀川を挟んで中心市街地に近接していることから、近年市街地が拡大してきた地域である。市街地周辺には農地が広がるが、市街地のスプロール化が進み、工場の立地なども見られる。長野南バイパスの開通により、沿道の一部で商業等の集積が進んだ。

長野五輪に合わせ、幹線道路など道路網の整備が進み、川中島地区の今井では、今井駅と今井ニュータウンが、更北地区の真島ではホワイトリングが整備された。

人口は緩やかな増加傾向にあり、年少人口の割合も高く、老年人口の割合も低い。



年齢別人口割合



(人) 川中島・更北地域の人口と世帯数の推移(世帯)



住民基本台帳より作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

《拠点の形成・都市機能》

- 川中島駅前には、駅前広場の整備は完了しているが、駅構内のバリアフリー化やアクセス道路の整備・改良は進んでいない。
- 今井駅周辺は、今井ニュータウンの建設と連動して、駅前広場、アクセス道路の整備など都市基盤整備が行われた。
- 土地区画整理事業が実施された長野南バイパス沿い、国道18号、県道長野上田線では、大型店、専門店、飲食店などの商業施設が集積している。
- 八幡原史跡公園には市立博物館などが立地しているが、観光・交流の拠点としては十分ではない。
- 更北地区の真島には、ホワイトリングが整備され、スポーツ・レクリエーションの拠点となっている。

(課題)

- 川中島駅周辺では、「生活拠点」としての都市基盤の整備、商業施設など都市機能の集積が求められる。
- 八幡原史跡公園は、川中島古戦場跡地としての知名度を活かした観光・交流の拠点としての機能向上が求められる。

《土地利用》

市街地のスプロール化が見られる。地域の外周部には農地が多く残っている。

- ・丹波島、青木島、三本柳の3地区では、土地区画整理事業による基盤整備が進められ、良好な住宅地が形成されている。
- ・県道長野上田線や国道18号、長野南バイパス沿道には、沿道型の商業施設や事業所、工場等が多数立地している。



(課題)

- ▶中心市街地に近いという地域特性を活かし、利便性が高く、環境や高齢化にも配慮したコンパクトな住宅市街地とするため、公共交通が利用しやすい交通環境の整備が求められる。
- ▶長野南バイパス等の広域的な幹線道路沿いは、店舗等の無秩序な立地による環境の悪化を防止するため、計画的な立地誘導の必要がある。
- ▶農地や自然環境と宅地が調和した土地利用を進める必要がある。

《道路・交通》

- ・中心市街地へアクセスする犀川を渡る橋がボトルネックとなっており、通勤時間帯に渋滞を引き起こしている。
- ・市街地が東西に細く形成されており、鉄道駅が地域の西端にあるため、鉄道利用には利便性が低い地区がある。

(課題)

- ▶犀川橋梁部の渋滞解消のため、総合的な交通施策が必要である。
- ▶地域内移動を容易にするため、川中島駅へのアクセスの強化やバス等の公共交通の確保が必要である。
- ▶歩道の設置等により道路のバリアフリー化を進めるとともに、未整備区間での幹線道路の整備が必要である。

《自然環境・都市環境・景観》

- ・水田や果樹園などの農業的土地利用が多く行われており、集落や宅地開発による住宅地が点在している。
- ・犀川、千曲川などの自然河川や、犀川から取水される農業用水路が多く流れている。

(課題)

- ▶犀川、千曲川等の自然環境を保全するとともに、これらを活かした空間整備も必要である。
- ▶良好な農地を保全し、都市内の緑と共存した良好な住宅地の形成が必要である。
- ▶幹線道路沿いでは、良好な景観形成への誘導が必要である。

《防災・安全》

- ・地域の東側は、犀川、千曲川の合流地点であり、水害の恐れがある。

(課題)

- ▶水害等災害に強い街づくりや体制づくりが必要である。

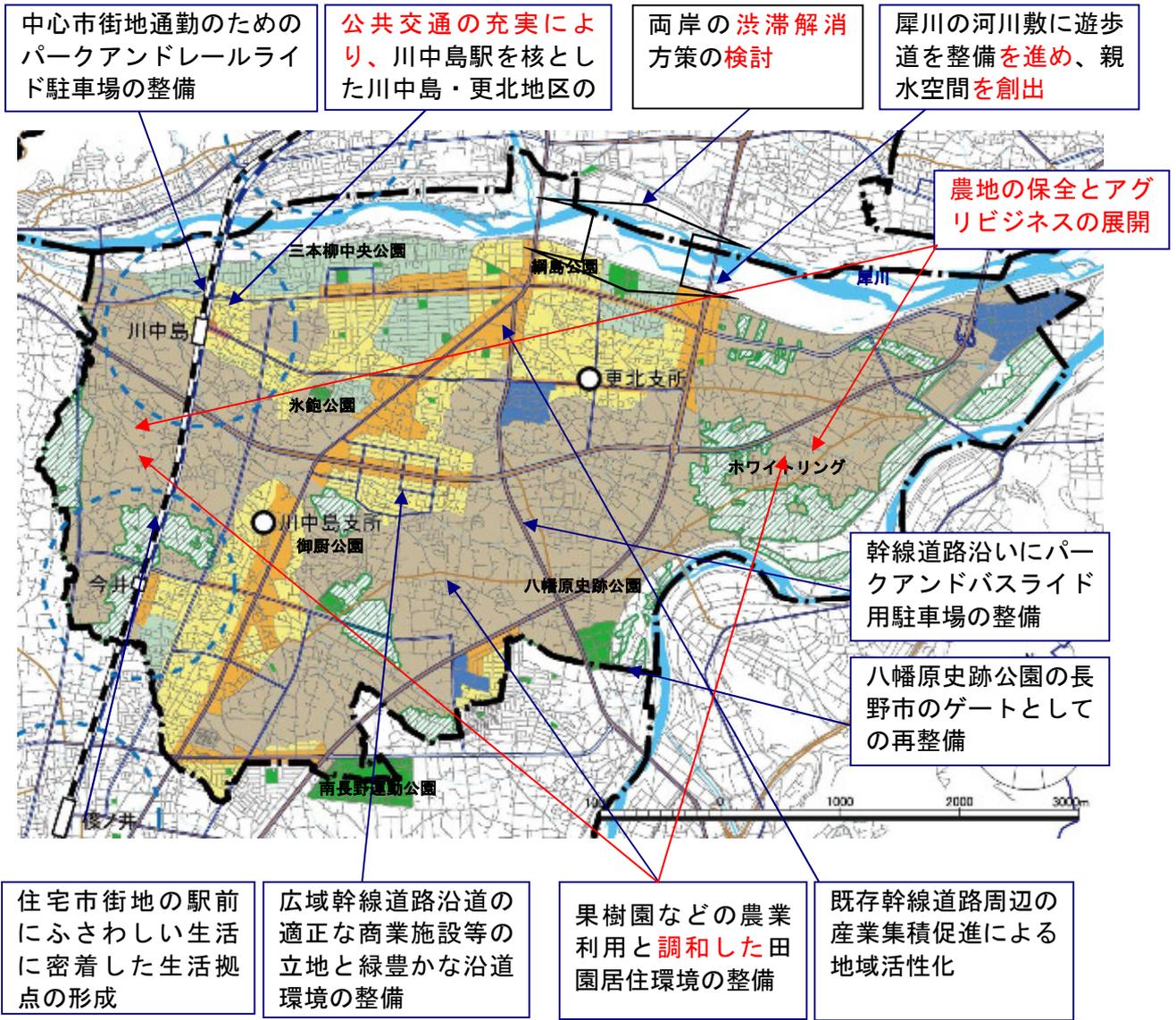
(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	東西に広がる市街地の 一体化 を進め、川中島駅と今井駅周辺の 生活拠点を中心とした公共交通網の整備により 利便性の向上を図るとともに、農業や工業などの産業的土地利用と住宅地が 調和した、秩序ある土地利用 を目指す。
------------	--

整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 川中島駅周辺の生活利便性の向上を図るために、鉄道、バス等の公共交通の充実、駅での乗換え、駅へのアクセスの向上により、駅利用を総合的に高め、駅を核とした川中島・更北周辺地域の歩いて暮らせる生活拠点づくりを進める。 長野南バイパス等の広域幹線道路沿いの市街地では、店舗等の適正な立地を誘導するとともに、良好な沿道景観の形成を図る。 今井駅周辺は、今井ニュータウン等の集合住宅地を抱えており、住宅市街地の駅前にふさわしい、地域に親しまれる生活拠点の形成を進める。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> 県道長野上田線、国道 18 号、国道 19 号(長野南バイパス) 及び更北市場線沿いの市街地は、商業・流通・工業等の複合的な土地利用を進めることで、地域の活性化を図るとともに、周辺の住宅地との調和を図る。 川中島駅周辺は、駅までの徒歩・自転車利用が容易なため、集合住宅等の都市型住宅の立地を進め、居住機能の集積を高める。 丹波島、青木島地区は、公共交通の充実により、川中島駅までのアクセスを強化し、良好な環境と利便性を備えた住宅地とする。 千曲川沿いや信越本線西側の地域は、農業的土地利用と居住機能が調和した防災性にも配慮した土地利用を図る。 市街地周辺に広がる良好な農地の保全を図るとともに、アグリビジネスの展開により農業の活性化を図る。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> 既存の橋周辺の渋滞解消に向けた総合的な方策の検討を行う。 自動車通勤による道路や橋の渋滞を緩和し、公共交通機関の利用を促進するため、駅に近接してパーク・アンド・レールライド用の駐車場や、幹線道路沿いにパーク・アンド・バスライド用の駐車場の設置を整備する。 県道長野上田線の整備を進めるとともに、住宅地では生活道路の改善により、良好な住環境の確保、防災性、利便性等の向上を図る。 長野広域拠点と、篠ノ井、松代、それぞれの地域拠点をつなぐ都市軸の交差点として、公共交通の基幹的施設の立地について検討する（南北基幹交通軸の形成）。 川中島駅周辺では、徒歩利用の推進と駅周辺の安全性の確保のため、歩道の整備など駅までの歩行空間の充実を図る。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の一般住宅地等では、道路空間や宅地内の緑を増やすとともに、水路の保全と活用を図り、景観に配慮した地域づくりを進める。 八幡原史跡公園は、レクリエーションに加え、観光や地域振興の面から広域的な交流を促進し、長野のゲートとしての再整備を進める。 犀川では、河川敷を利用して遊歩道の整備を進めるとともに、自然とふれあえる親水空間の創出を図る。 犀川から取水される農業用水路を保全し、活用を図る。

防災都市づくり 方針	<ul style="list-style-type: none">・安全で安心して生活できる住宅市街地とするため、学校、公園等の公共施設を核とした防災拠点の強化を図る。・千曲川、犀川では、水害を防ぐ河川改修を進める。・水害等災害に強い街づくりや体制づくりを進める。
---------------	---

【川中島・更北地域 整備方針図】



〔地域共通の事項〕

- ・ 水害等災害に強い街づくりや体制づくり
- ・ 住宅市街地の骨格となる補助幹線道路の整備
- ・ 緑や景観に配慮した住宅地の環境整備
- ・ 生活道路の改良による住環境の向上

- 中心商業・業務複合地
- 複合市街地
- 工業地
- 一般住宅地
- 専用住宅地
- 公園・緑地
- 田園居住地
- 農用地

○ 鉄道駅徒歩圏(半径800m)

9 篠ノ井地域（篠ノ井地区）

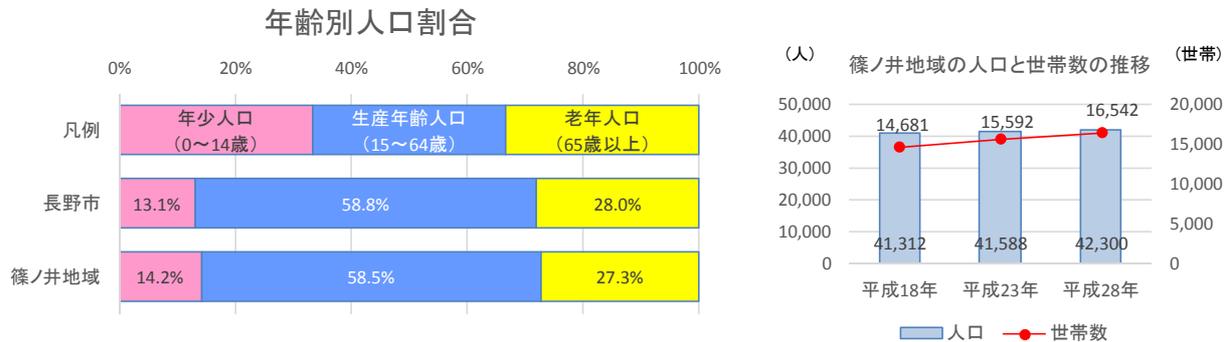
(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

篠ノ井地区は、長野市南部の中心的な市街地であり、篠ノ井駅や旧街道から外に広がるように住宅地が形成され、その周辺は農的土地利用が行われているが、市街地のスプロール化が進んでいる。篠ノ井駅の徒歩圏内に南部図書館、篠ノ井総合市民センターなどの文化・教養施設が立地している。地区内には、茶臼山動物園や南長野運動公園等のスポーツ・レクリエーションの拠点施設が立地する。地区西側の信里は、中山間地域に属する。



人口推移は横ばいで、人口割合は、ほぼ市の平均的な数値であり世帯数は増加傾向にある。



住民基本台帳より作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

《拠点の形成・都市機能》

- ・篠ノ井駅周辺では、篠ノ井停車場線沿いに住宅の混在する商業・業務地区が形成されているが、商業施設等の撤退もあり、中心性が低下している。
- ・商業・業務利用は、県道長野上田線や国道18号の沿道に集積している。
- ・国道18号、県道長野上田線では、大型店、専門店、飲食店などの商業施設が集積している。
- ・篠ノ井駅の徒歩圏内に、南部図書館、市民文化会館などの文化・教養施設が立地している。
- ・篠ノ井駅を中心に市街地は形成されているが、駅を中心としたまちづくりが進んでいない。

(課題)

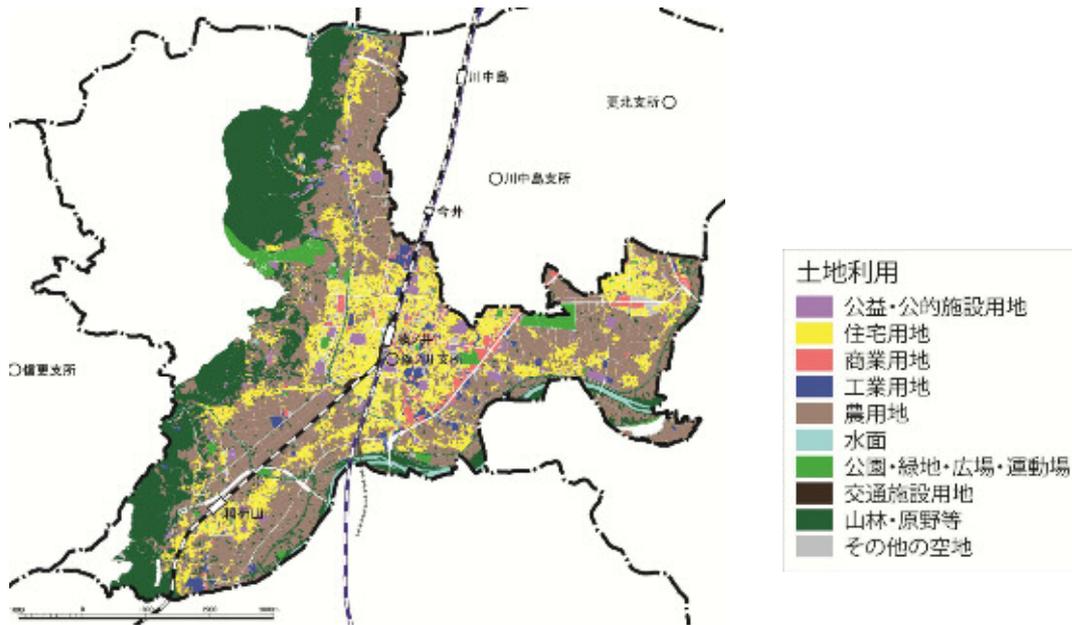
▶篠ノ井駅周辺は、市南部の地域拠点として、JR篠ノ井線としなの鉄道線、鉄道とバスとの交通結節点としての優位性を活かした高度な土地利用による都市機能の強化が必要である。

《土地利用》

- ・県道長野上田線、国道18号、五明西寺尾線沿線には、沿道型の商業施設や事務所等が立地している。
- ・幹線道路沿いや市街地の周辺部に工場等の立地が見られる。
- ・土地区画整理事業により瀬原田地区や水沢上庭地区では、住宅地が整備されている。
- ・市街地周辺には農地が広がり、地区西側の信更には林地も多い。

(課題)

- ▶環境や高齢化に配慮したコンパクトな市街地の形成が求められる。
- ▶幹線道路沿いでは、無秩序な店舗等の立地による環境悪化を防ぐため、計画的な土地利用の誘導を図り、生活の利便性や生活拠点を強化する市街地の形成が必要である。
- ▶豊かな自然や農業、生活・産業とが調和した土地利用が求められる。
- ▶篠ノ井駅西口の低・未利用地の活用による都市機能の強化が求められる。
- ▶高速道路へのアクセスの良さを活かした土地利用の誘導が求められる。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成
(都市計画区域外はデータがないため非表示)

《道路・交通》

- ・新幹線の整備に合わせ、篠ノ井駅では自由通路や広場等の整備が行われた。
- ・幹線道路の整備が進まず、渋滞を引き起こしている。
- ・公共施設等を結ぶバス路線網が弱い。

(課題)

- ▶篠ノ井駅周辺では、幹線道路、駐車場等の整備が必要である。
- ▶歩道の拡幅など生活道路の改良が必要である。
- ▶補助幹線道路の整備と合わせたバス路線の再編など、篠ノ井駅を中心とした地域内の連絡、松代などの地域拠点と連絡する路線や運行の改善により、公共交通としてのネットワークの形成が必要である。

《自然環境・都市環境・景観》

- ・茶臼山一体には動植物園や恐竜公園が整備されている。
- ・南長野運動公園は、大規模な公園として憩いの場となっており、またスポーツやイベント等広域的な集客力がある。
- ・千曲川沿いには、果樹園を中心としたまとまった農地と集落が点在している。
- ・千曲川や岡田川などの自然河川や、犀川から取水される農業用水路が多く流れている。
- ・地区西側の信里には、豊かな自然が残る林地、農地が多く残されている。

(課題)

- ▶南長野運動公園、茶臼山公園等の拠点的な公園や公共施設を活かし、市を訪れる県内外から来訪者との広域的な交流を促進する街づくりが求められる。
- ▶良好な農地と千曲川等の自然環境を保全し、緑豊かで良好な住環境の整備が必要である。
- ▶篠ノ井駅周辺や幹線道路沿いで良好な景観への誘導が必要である。

《防災・安全》

- ・千曲川沿いの西寺尾や東福寺、塩崎地区には農地が広がっているが、過去に水害を受け、水防・排水対策が行われている。
- ・中山間地域の信里では、頻りに土砂災害が発生している。

(課題)

- ▶水害等災害に強い街づくりや体制づくりが必要である。
- ▶旧市街地では、木造建物が密集した地区もあり、防災性の向上が必要である。

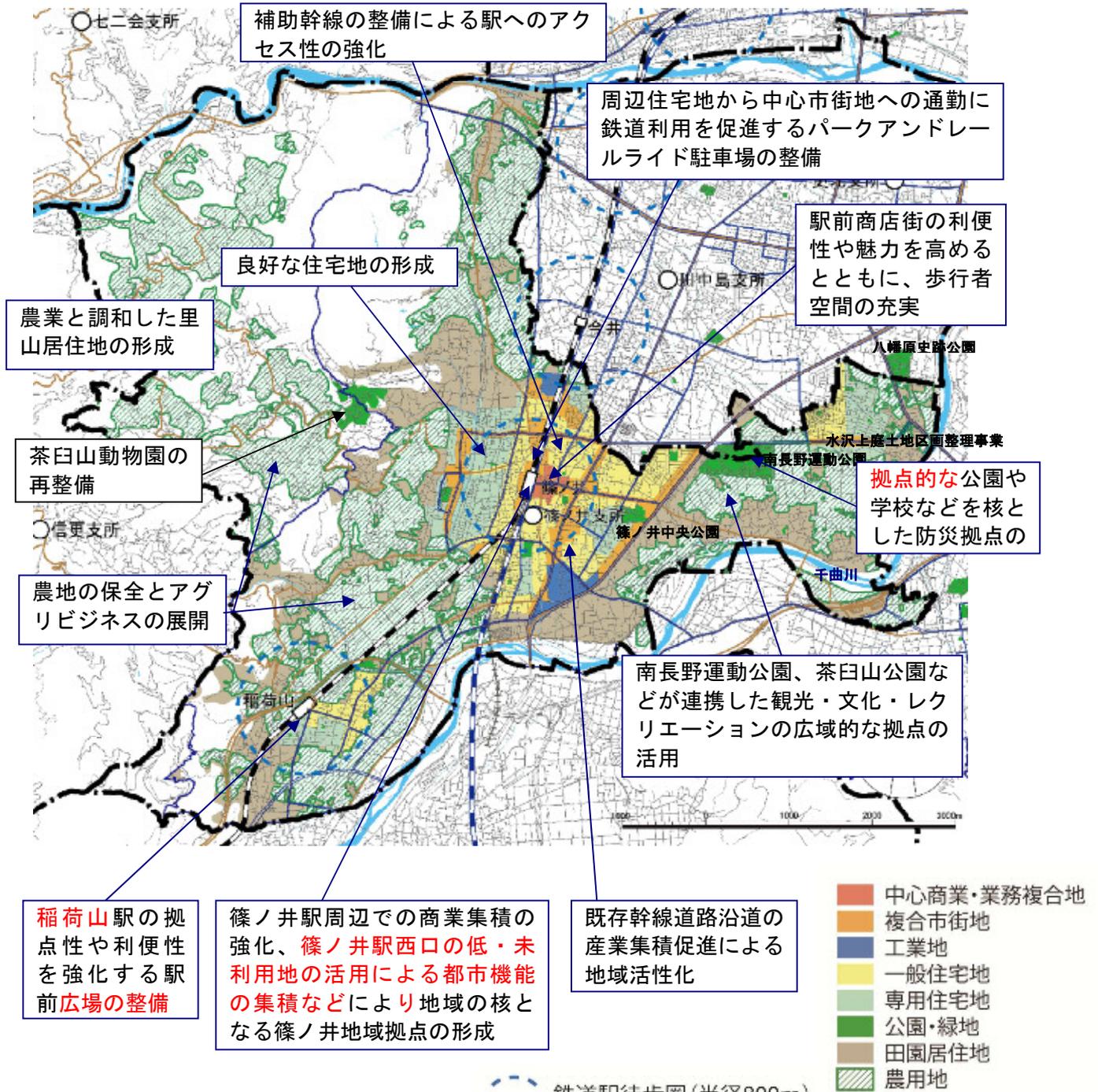
(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	市の副都心、広域的な交流拠点として、長野市の南の玄関口にふさわしい地域づくりを目指す。
------------	---

整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・市の南の玄関口として、地域拠点にふさわしい都市機能の充実を図る。 ・地域周辺に広がる住宅地を公共交通で結び、篠ノ井駅を中心とした都市機能の集約により、コンパクトなまちづくりを進める。 ・篠ノ井駅西口の低・未利用地の活用により都市機能の集積を図る。 ・国道 18 号、県道長野上田線等の広域幹線道路沿いの市街地では、店舗等の適正な立地を誘導するとともに、良好な沿道景観の形成を図る。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・国道 18 号、県道長野上田線、五明西寺尾線等の周辺地区では、市街地の無秩序な拡大を防止し、周辺の農地とも調和した土地利用を図る。 ・長野インターチェンジ・更埴インターチェンジに近接する立地特性を活かし、商業・業務、工業等の秩序ある土地利用を進める。 ・水沢上庭地区では、秩序ある複合的な土地利用の誘導を行い、良好な市街地の形成を図る。 ・篠ノ井駅西側や稲荷山駅周辺の市街地は、住宅地を中心とした良好な住環境を維持する土地利用を図る。 ・千曲川沿いや西側の丘陵地一帯は、農業的土地利用と居住機能が調和した防災性にも配慮した土地利用を図る。 ・市街地周辺に広がる良好な農地の保全を図るとともに、アグリビジネスの展開により農業の活性化を図る。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・篠ノ井駅周辺では、駅前商店街の利便性や魅力を高めるとともに歩行者空間の充実を図る。 ・篠ノ井駅では、自動車通勤による道路や橋の渋滞緩和と公共交通の利用促進を図るため、パークアンドレールライド用の駐車場の整備を進める。 ・稲荷山駅では、拠点性や利便性強化のため駅前広場等の整備を進める。 ・篠ノ井駅の拠点性を高めるため、幹線道路と生活道路の一体的な整備を進める。 ・川中島・篠ノ井間の南北連携を円滑にする川中島幹線の整備を進める。 ・県道長野上田線など交通量が多い幹線道路では、歩道整備、交差点改良を促進する。 ・千曲市、上田市等との広域的な連携強化に必要な道路の整備促進を図る。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・南長野運動公園、茶臼山公園等との連携を強化し、観光・文化・レクリエーションの広域的な交流拠点の形成を図る。 ・道路空間の緑化、沿道での緑化活動の推進、良好な景観の誘導等により、緑の軸を形成する。 ・市街地内の小公園や街路樹等の整備に加え、宅地内の緑化等により緑豊かな住環境の整備を進める。 ・犀川から取水される農業用水路を保全し、活用を図る。

防災都市づくり 方針	<ul style="list-style-type: none">・既存住宅地では、狭あい道路の改善、耐震補強の推進などにより防災能力の強化を図る。・南長野運動公園、篠ノ井中央公園等の拠点的な公園や学校等の公共施設は、避難地として活用されるため、防災拠点としての機能強化を図る。・千曲川、岡田川では、水害を防ぐ河川改修を進める。・水害等災害に強い街づくりや体制づくりを進める。
---------------	--

【篠ノ井地域 整備方針図】



補助幹線の整備による駅へのアクセス性の強化

周辺住宅地から中心市街地への通勤に鉄道利用を促進するパークアンドレールライド駐車場の整備

駅前商店街の利便性や魅力を高めるとともに、歩行者空間の充実

良好な住宅地の形成

農業と調和した里山居住地の形成

茶臼山動物園の再整備

拠点的な公園や学校などを核とした防災拠点の

農地の保全とアグリビジネスの展開

南長野運動公園、茶臼山公園などが連携した観光・文化・レクリエーションの広域的な拠点の活用

稲荷山駅の拠点性や利便性を強化する駅前広場の整備

篠ノ井駅周辺での商業集積の強化、篠ノ井駅西口の低・未利用地の活用による都市機能の集積などにより地域の核となる篠ノ井地域拠点の形成

既存幹線道路沿道の産業集積促進による地域活性化

〔地域共通の事項〕

- ・道路空間の緑化、沿道で緑化活動の推進、良好な景観の誘導による緑の軸の形成
- ・幹線道路沿道の流通施設などの秩序ある立地
- ・緑や景観に配慮し、防災性の高い住環境の整備
- ・国道18号、県道長野上田線、五明西寺尾線等幹線道路の周辺地区での市街地の無秩序な拡大を防止

10 松代・若穂地域（松代地区・若穂地区）

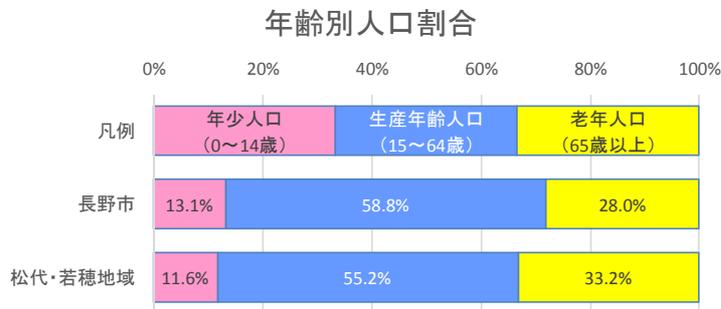
(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

歴史・文化的資産が多く残る地域で、千曲川と南側の菅平高原や保基谷山等の山々に囲まれた平坦地にコンパクトな街が形成されている。松代は、武家屋敷や寺社を中心に観光振興が行われ、若穂は、農業と居住地域が調和したまちおこし活動も展開されている。

2つのインターチェンジ周辺では、流通機能が立地している。

人口はほぼ横ばいであり、老年人口の占める割合が比較的高い。



住民基本台帳より作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

《拠点の形成・都市機能》

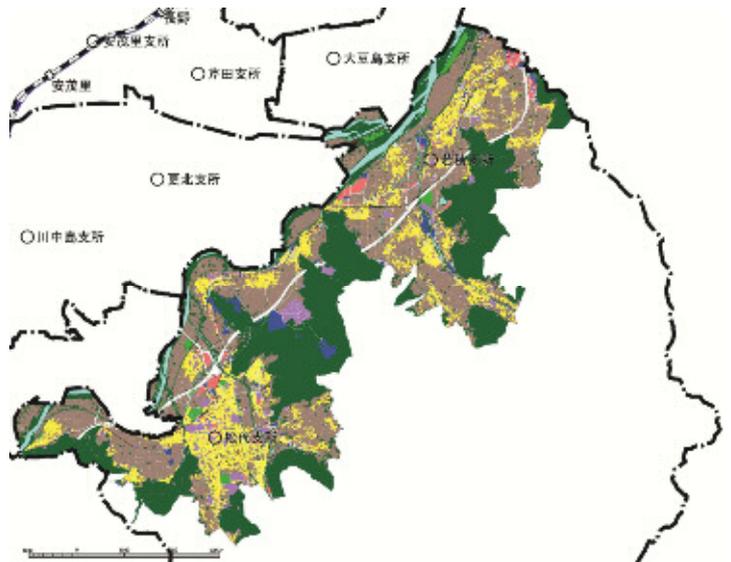
- 千曲川の右岸を運行していた旧長野電鉄屋代線が利用者の減少などにより、平成24（2012）年に廃止され、廃線敷地は、千曲川新道（自転車・歩行者専用道路）として整備中である。
- 松代地域は商業、観光、行政等の諸機能がコンパクトに集積しており、総合病院が立地しているなど千曲川東側地域の中心的市街地となっている。
- 若穂地域は綿内地区の国道403号線の沿道に小規模な店舗や金融機関などの立地が見られる。

(課題)

- ▶旧屋代線の廃止により鉄道による公共交通が無くなったことから、松代地区の拠点としての機能を維持するため、交通ネットワークの確保が必要である。
- ▶松代地域は、地域文化や観光等の拠点として史跡や歴史的街並みを活かした活性化と、生活基盤としての利便性をもつ街づくりが必要である。
- ▶若穂地域は、不足している生活利便施設（食品スーパー等）の立地を誘導し、生活を支える拠点性を強化する必要がある。

《土地利用》

- ・旧街道沿いに住宅地が形成されているが、市街地周辺は、農地に集落が点在している。
- ・高速道路のインターチェンジの周辺では、流通機能等の集積が見られる。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成
(都市計画区域外はデータがないため非表示)

(課題)

- ▶市街地周辺部では、豊かな自然と生活・産業とが調和した田園居住地の形成が必要である。
- ▶インターチェンジに隣接する立地を活かした産業・流通機能の集積促進が必要である。

《道路・交通》

- ・城下町の街並みが残る一方、都市基盤が未整備で、朝夕には交通渋滞が見られる。
- ・旧屋代線の廃線により、代替路線バス（屋代須坂線）が運行されている。
- ・若穂地区では、廃止代替路線バス（大豆島保科温泉線）の共同運航されている。

(課題)

- ▶歴史的街並みに配慮した道路や歩道の整備を進める必要がある。
- ▶観光振興の面からも分かりやすく使いやすい道路、駐車場の充実、公共交通との連携が必要である。
- ▶屋代線廃止に伴う公共交通ネットワークの再編を検討する必要がある。
- ▶松代は、地域拠点として、長野広域拠点や周辺地域との連携した公共交通ネットワークの形成が必要である

《自然環境・都市環境・景観》

- ・千曲川沿いには農用地が広がり、りんごやぶどう等の果樹、長芋、野菜等の畑地となっている。
- ・松代地区の中心市街地では、武家屋敷や寺社など歴史的街並みが残っており、これらを活かした道路整備等が進んでいる。

(課題)

- ▶千曲川や森林などの自然環境の保全が求められる。
- ▶市街地内の川や水路、公園や寺社の緑とオープンスペースを活かした潤いのある街づくりを進める必要がある。
- ▶アグリビジネス等を導入した観光農業や体験型農業等の施策展開が必要である。
- ▶松代から若穂川田周辺では、歴史的風致の維持・向上が必要である。

《防災・安全》

- ・松代町清野、西寺尾、若穂牛島、若穂川田地区等では過去に浸水被害が発生している。

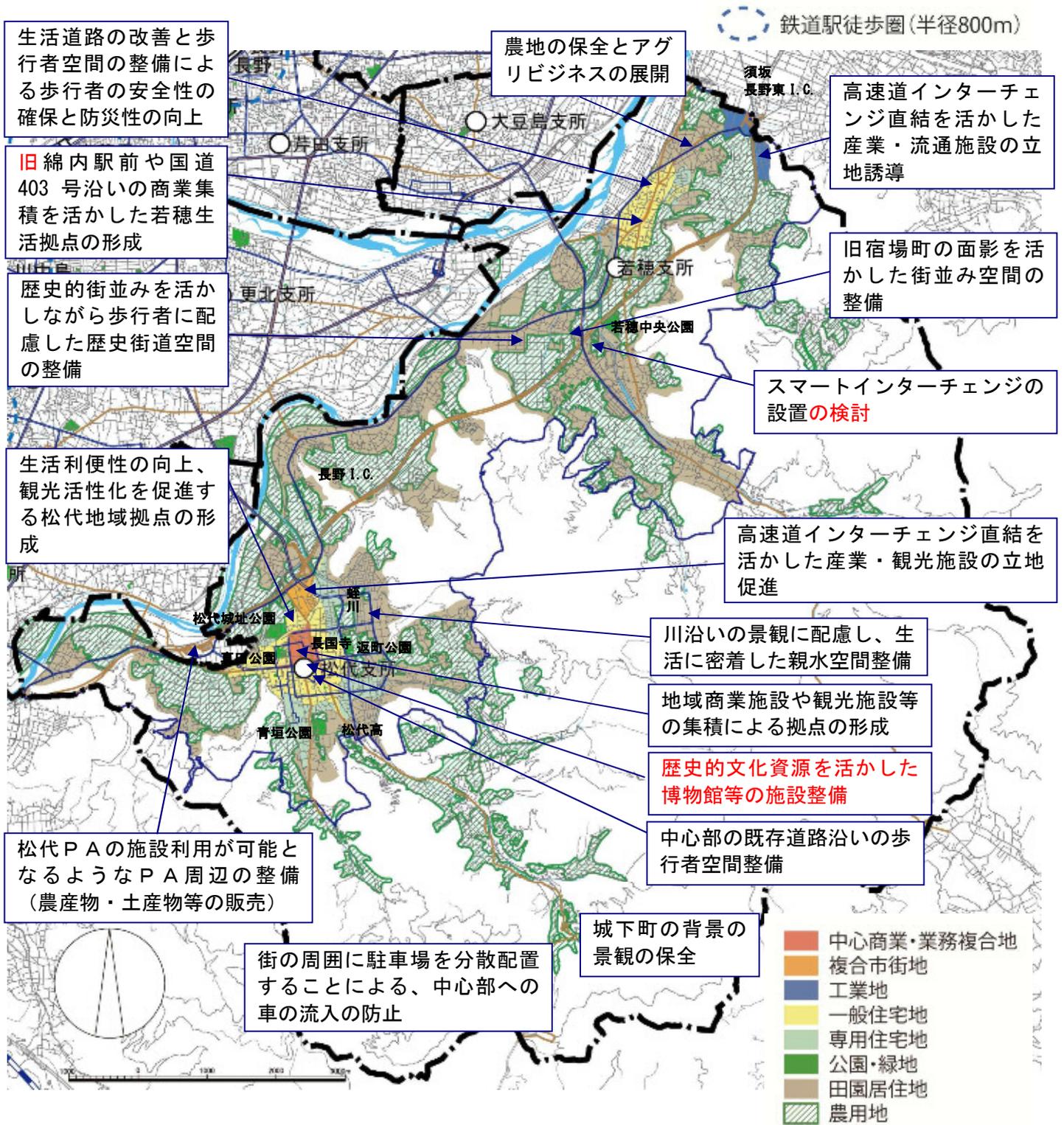
(課題)

- ▶千曲川沿いの低地での水害に強い街づくりや体制づくりが必要である。
- ▶文化財を含む木造建築が多い歴史的市街地では、防火機能の向上が必要である。

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	地域の個性ある歴史や文化を活かし、交流の促進を図り、良好な街並みと自然が共存するまちを目指す。
整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 松代地域は、松代城、真田邸等の歴史的な文化資源を活かした博物館施設等の整備や商業、観光施設など集積により、地域拠点づくりを目指す。 若穂地域では、旧綿内駅前や国道 403 号沿いの生活利便施設等の集積を促進するとともに良好な住環境の確保により生活拠点の形成を図る。 上信越自動車道の長野インターチェンジや須坂長野東インターチェンジ周辺は、流通、工業等の産業施設の集積を図る。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> 旧松代駅を中心とした市街地では、地域拠点としての都市機能とともに、松代城や真田邸などを代表とする観光資源を活用した土地利用を誘導する。 長野インターチェンジ周辺、須坂長野東インターチェンジ周辺では、立地条件を活かし地域に密着した産業、流通等の土地利用を誘導する。 松代地域、若穂地域の住宅地は、戸建住宅を中心とし、周辺に点在する寺社や川などの歴史・自然と調和し、景観に配慮した住宅地として土地利用を図る。 市街地の周辺地区は農業と居住機能が調和した土地利用を図る。
道路・交通整備方針	<p>【松代地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 松代地区に点在する史跡や公園等を、歩行者や観光客が回遊できる景観に配慮した歩行者空間の整備を進める。 道路幅員が狭く、交通安全や景観上問題のある中心商業地では、歩行者空間の確保、街並みを活かした道路整備等を進める。 市街地の周辺部に計画的に駐車場を整備し、観光客等の自家用車での中心市街地への流入を防ぎ、徒歩での周遊観光を推進する。 長野広域拠点と地域拠点である松代をつなぐ南北基幹交通軸の強化と周辺地域との連携を図る公共交通ネットワークを検討する。 <p>【若穂地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 渋滞緩和を図るための幹線道路の整備を進める。 千曲川に架かる橋でのボトルネックを解消するため、落合橋の拡幅整備を検討する。 流通・工業等の産業基盤の機能向上を目的としたスマートインターチェンジ等の交通拠点の構想を推進する。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 農地や森林と共存した良好な田園居住地の形成を図る。 <p>【松代地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 史跡や武家屋敷など歴史的な街並みが残る地区では、地域の観光資源として街並みの保全と再生を進めるとともに、潤いのある良好な住環境の整備を進める。 千曲川、蛭川、神田川や街中を流れる水路沿いでは、水辺の景観に配慮し、自然とふれあう泉水路の保全や遊歩道の整備を進める。 <p>【若穂地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧宿場町の面影を活かした街並み景観の整備を進める。 国道 403 号線沿いの中心部では、良好な街並みの形成を図る。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> 学校や公園などのオープンスペースを活用し、街の防災機能の強化を図る。 生活道路や歩行者空間の整備等により、木造建築の多い市街地の防火機能の強化を図る。 歴史ある木造建築物の防災対策の強化を図る。

【松代・若穂地域 整備方針図】



〔地域共通の事項〕

- ・ 歴史的街並みの保存と再生と合わせた住環境整備
- ・ 農地、山林に囲まれた良好な田園居住地の形成

1.1 北部山間地域（芋井地区・戸隠地区・鬼無里地区・浅川地区の一部）

(1) 地域特性と現況・課題の整理

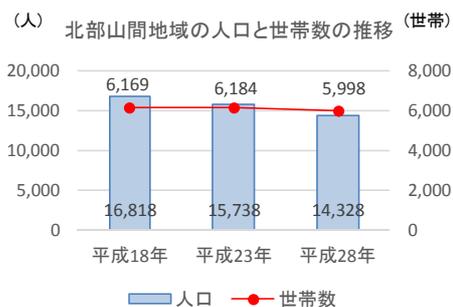
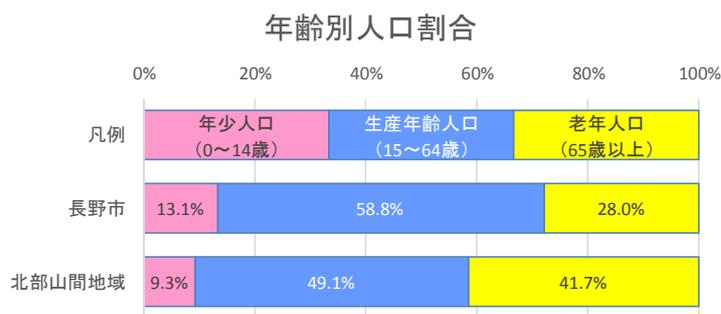
地域特性

長野都市計画区域外の北部の丘陵・山間部であり、北に高くそびえる戸隠連峰と飯縄山麓に広がる高原地帯と地区の南側の裾花川沿いの谷間や斜面に、森林や農地に集落が点在し、飯綱高原、戸隠、鬼無里地区の一部は、妙高戸隠連山国立公園に指定された自然観光・レクリエーションの長野市を代表的する地域となっている。

また、飯綱高原では、自然と調和した土地利用を目指すため、平成15年度に飯綱高原都市計画区域に指定している。

この地域では、地区毎に特有の伝統と文化を持ち、古くから長野地域との交流が多く、現在では、主に国道406号、戸隠バードライン、浅川ループライン等の幹線道路によって、交流している。

この地域では、人口減少と高齢化が進み、地域の活力が失われてきている。



住民基本台帳より作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

《拠点の形成・都市機能》

- 各地区では、旧町村の役場跡である市役所支所周辺に公共公益施設が立地しており、地区の中心的な集落が形成され行政や地域生活の中心である。
- 地域内は、妙高戸隠連山国立公園の一部となっており、北信五岳である戸隠連峰、高妻山、飯縄山や戸隠高原、飯綱高原、奥裾花溪谷・自然園、戸隠神社、白髭神社、戸隠地質化石博物館、スキー・キャンプ場など豊かな自然や景観を活かした観光・レクリエーション・文化施設が立地し、観光資源となっている。

(課題)

- ▶地区の中心である市役所支所周辺では、日常生活機能や福祉・教育施設などの集積と維持や地域内のネットワークの確保が必要である。
- ▶豊かな自然、心安らぐ景観を活かした観光として、飯綱高原や戸隠高原では、アウトドアスポーツやアウトドアライフを楽しむ施設や環境を活かし、スポーツ・レクリエーションの拠点性を高め、周辺地域との連携による回遊性の強化が必要である。
- ▶戸隠神社、白髭神社、戸隠地質化石博物館などの歴史・文化資源を活かした観光の拠点性や回遊性の強化が必要である。

《土地利用》

- ・農林業と生活が一体となった土地利用が行われてきたが、既存集落では、人口減少と高齢化の進展により、地域コミュニティの存続が課題となっている地区が増加している。
- ・飯綱高原地区では、森林や農地の中に集落や別荘が点在し、その他の地区でも、集落の多くは、森林や農地の中に点在している。
- ・国道406号や県道等の主要な道路沿いに、大きな集落、商店街が形成され、観光施設等が立地している。

(課題)

- ▶生活の利便性向上や既存の集落コミュニティの維持や豊かな自然や景観を活かした交流による地域活性化を目指した施設整備や施策展開が必要である。
- ▶豊かな森林資源を活用した地域活性化の施策展開が必要である。
- ▶別荘地や集落等やその周辺地区での無秩序な開発抑制と良好な環境の保全を進める必要がある。

《道路・交通》

- ・長野地区中心市街地と連絡する幹線道路が各地区を結んでいるが、山間部のため、整備が進んでいない区間もある。
- ・裾花川沿いの幹線道路である国道406号や地区間を結ぶ県道等の隣接地域と連携する幹線道路整備が求められている。
- ・地域間交流や観光の回遊性確保や隣接地域と連携強化が求められる。
- ・地域内では、コミュニティバスやデマンドタクシーが運行されている。

(課題)

- ▶隣接市街地との連携を強化するための道路強化・充実が必要である。
- ▶観光の回遊性確保や隣接地域との交流促進のための主要な地域間を連絡する道路の整備が必要である。
- ▶防災面の向上や安全性を重視した生活道路の整備が必要である。
- ▶住民生活の移動手段となるバス交通等の確保が必要である。

《自然環境・都市環境・景観》

- ・森林や農地といった自然的土地利用が大部分を占めており、保安林のほか自然公園区域(特別地域)・長野市自然環境保全地域にも指定されている。
- ・飯綱高原、戸隠地区、鬼無里地区の一部は、妙高戸隠連山国立公園に指定され、豊かな自然環境を活かした施設が整備されている。
- ・奥裾花峡谷やブナの原生林をはじめとする自然豊かな環境を有している。
- ・戸隠地区では、中社区、宝光社区を中心とする範囲が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

(課題)

- ▶集落の後背地である森林等の緑のと景観の保全が求められる。
- ▶幹線道路沿道等における良好な環境・景観の維持・創出を図る必要がある。
- ▶農林業を核とした交流促進や二地域居住者への営農支援等により森林や農地の機能保全を図る。
- ▶新たなアグリビジネスの発掘による農業の生産性の向上と営農移住者の開拓を進める。
- ▶自然の保護や水源の涵養を進めるとともに、森林資源を適切に活用することで自然の拠点性を高める。
- ▶戸隠地区では、茅葺き建物など伝統的建造物がつくりだす歴史的まちなみの整備や戸隠神社奥社、中社、宝光社を中心とする歴史・文化的景観の確保が必要である。
- ▶鬼無里地区ではアルプス展望の保全と観光資源としての活用が必要である。

《防災・安全》

- ・広範な地域が地すべり防止区域等の指定を受けており、土砂災害を受けやすい地形となっている。
- ・山間地に集落が点在しているため、土砂災害や冬季の降雪による地域生活への影響が懸念される冬季は積雪も多く地域生活への影響がある。
- ・道路への倒木防止の観点からも、森林の適切な維持管理が必要である。

(課題)

- ▶災害防止のための整備や予防・応急体制の充実が必要である
- ▶災害時の集落孤立を防ぐため、複数のアクセス経路の確保が必要である。
- ▶冬季の除雪対策(道路等)を進める。
- ▶災害抑止の観点として、森林・農地などの自然環境を保全し保水能力を高める必要がある。

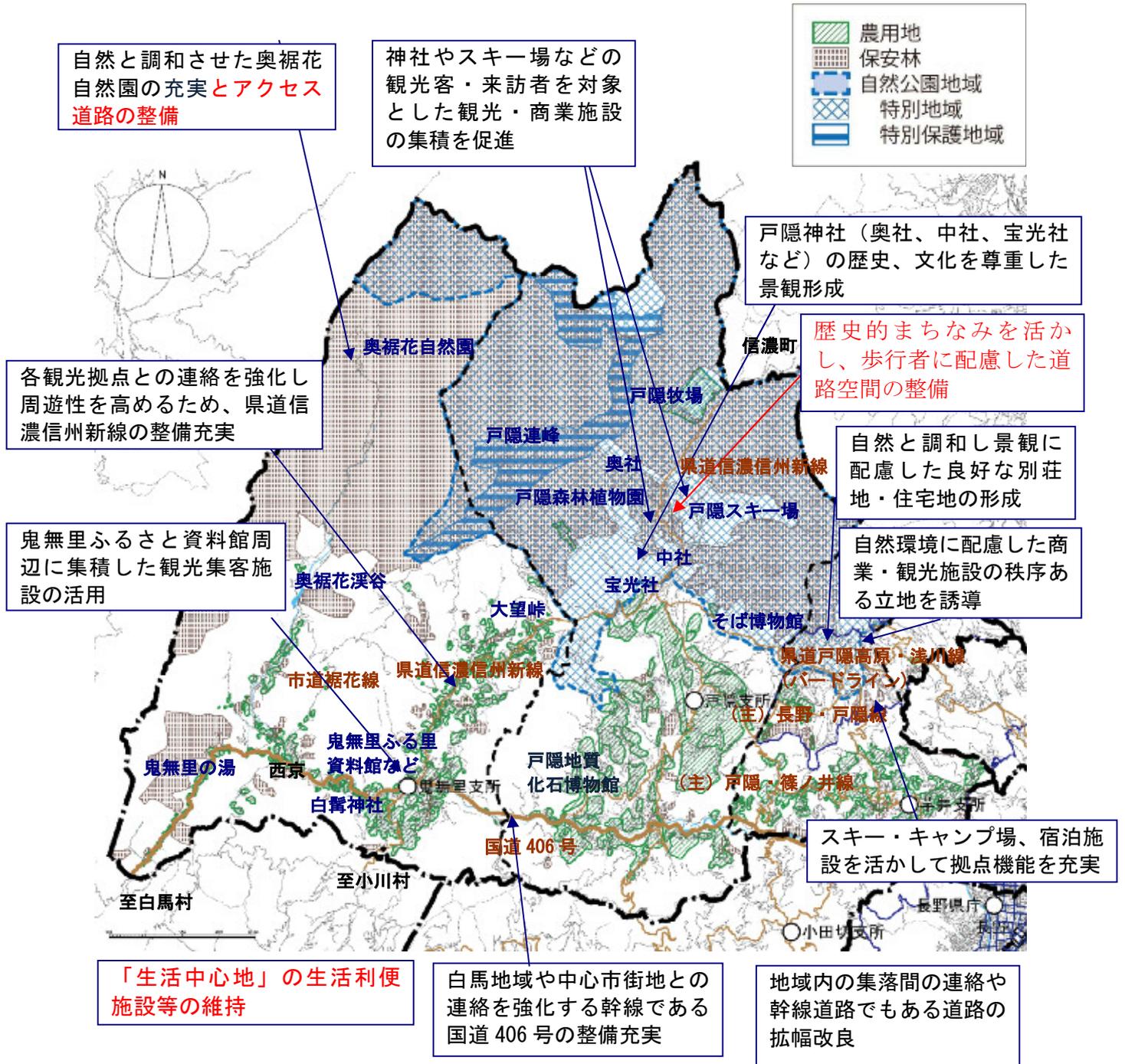
(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	<p>自然を活かした観光・スポーツ・レクリエーションなどの活動が展開される拠点の形成と、自然と共生する多様な住み方を可能にする高原生活圏の形成や良好な環境を活かした里山居住の形成を目指す。</p> <p>特有の歴史、文化や自然・景観などの地域資源を活かしたまちづくりを進め、地域間交流の増進と地域コミュニティの再生と維持を目指す「小さな拠点」づくりの取組みを進める。</p>
------------	---

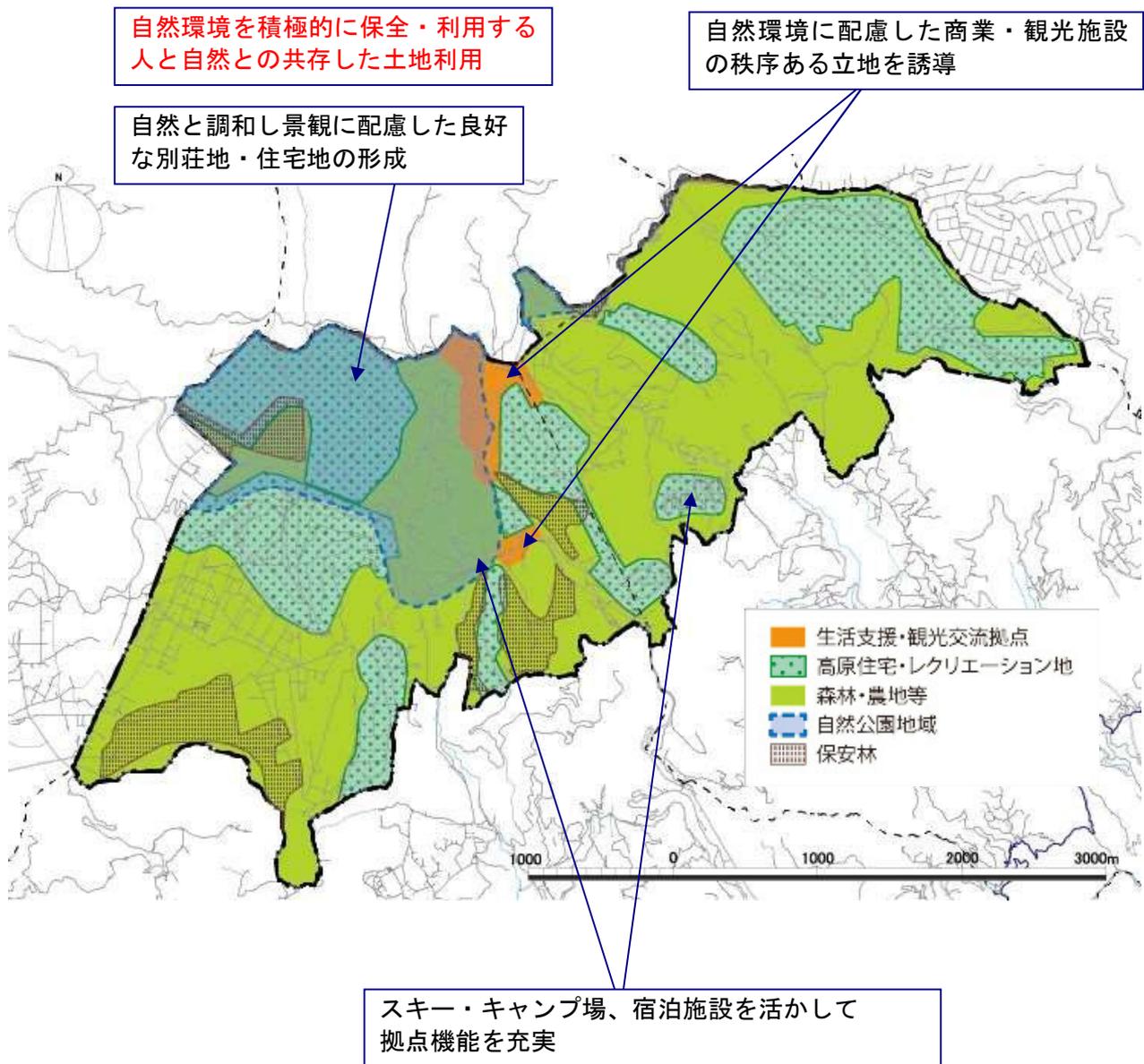
整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然や風土を尊重し、良好な環境を活かした高原居住地や里山居住地の形成を図る。 国立公園に指定されている自然をはじめ、史跡、神社などの歴史的文化資産を活かした観光やスキー・キャンプ場のスポーツレクリエーション活動の拠点形成とともに情報発信等による交流人口の増加を図る。 将来にわたって持続可能な地域づくりの取組みである「小さな拠点」づくりによる「生活中心地」の形成を図る。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> 観光拠点等を連絡する幹線道路沿いの地区では、自然環境に配慮した商業・観光施設の秩序ある立地を誘導する。 飯綱高原地区では自然と共存した計画的な土地利用・開発を進めるため、「飯綱高原土地利用ガイドライン」等に沿った土地利用を図る。 公共公益施設が集約しているエリアを「生活中心地」として、生活利便施設等の維持を図る。 空き家や遊休公共施設等の活用による定住促進や短期滞在、二地域居住などの新しい住み方、滞在方法を支援する。 人口減少・少子高齢化を踏まえ、点在する集落での生活環境の向上を図るとともに、地域住民の参加・合意をもとに集落整備を進め、長期的視点による集落形成やコミュニティの維持を図る。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> 長野地区や他の拠点を連絡する道路整備により、市街地との連絡機能を強化する。 地域の防災性や居住環境を向上させる生活道路の整備や維持管理を進める。 住民生活の移動手段であるバス交通やデマンドタクシー等の公共的な移動手段の確保を図る。 中心市街地や鬼無里地域への国道 406 号の拡幅整備を進める。 周辺の観光拠点との連携を強化し、周遊性を高めるための道路の充実を図る。

<p>自然環境・ 都市環境・ 景観形成方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園をはじめとする良好な自然景観の保全に配慮する。 ・ 北アルプスや戸隠連峰などの雄大な眺望の確保を図るとともに、幹線道路等の沿道やその他景観に配慮すべき地区等においては、建物や工作物の形態、色彩、看板等の規制を行い、良好な環境・景観の維持、創出を図る。 ・ 市街地全体を縁取る緑としての森林の保全を図る。 ・ 農林業を核とした交流促進や二地域居住者への営農支援、アグリビジネスの開拓、間伐材利用の木質バイオマス利用等により森林や農地の機能保全を図る。 ・ 自然の保護や水源の涵養を進め、森林資源の適切な活用による豊かな自然の保全を進める。 ・ スキー場やキャンプ場などの自然環境を活用した施設の改善や、自然と調和した奥裾花自然園とアクセス道路の計画的な整備を進め、観光資源の質の向上による来訪者の増加を図ると共に、自然環境の保護に留意する。 ・ 戸隠地区では、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された戸隠神社中社・宝光社周辺の歴史的まちなみの整備を進めるとともに、地域固有の歴史・文化を尊重し周辺の自然環境と調和した景観形成を図る。
<p>防災都市づくり方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害等防止のための整備推進や予防・応急体制の充実を図る。 ・ 災害時の集落孤立を防ぐため、複数のアクセス経路の確保を図る。 ・ 冬季の除雪体制の強化・充実を図る。

【北部山間地域 整備方針図】



【飯綱高原地区 整備方針図】



〔地域共通の事項〕

- ・ 自然の保護や水源の涵養を進め、森林資源の適切な活用による豊かな自然を保全し、北アルプスや戸隠連峰などの雄大な眺望を確保する。
- ・ 自然・歴史・レジャー・景観等の要素を活用した観光の振興（交流人口の増加）。
- ・ 農林業を核とした交流促進や二地域居住などを促進し、空き家などの活用により新規居住者を増加させ、定住人口増を図る。
- ・ **地域コミュニティの再生と維持を目指す、「小さな拠点」づくりの取組みを進める。**
- ・ 地域生活の移動手段となるバス交通、デマンドタクシー等を確保する。
- ・ 森林や農地と自然・歴史資源を活かし、観光とも連携した農林業を振興する。
- ・ 災害時の道路閉そくに備え、複数のアクセス経路の確保を進める。

1.2 西部山間地域 (小田切地区・七二会地区・信更地区・大岡地区・信州新町地区・中条地区)

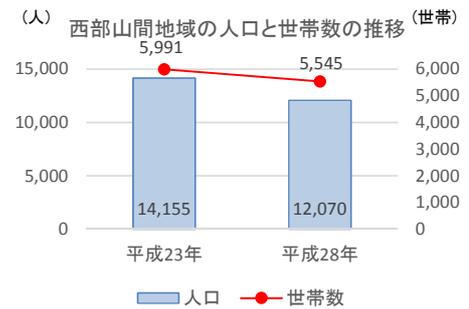
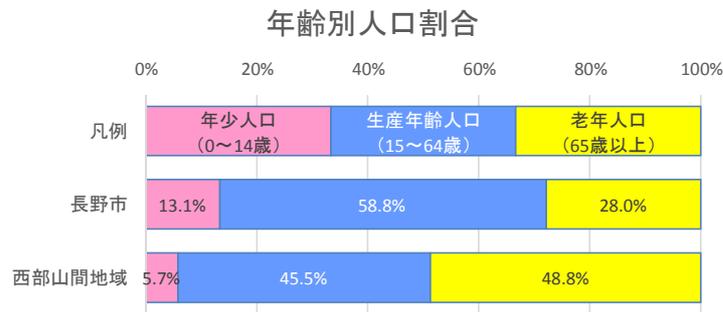
(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

都市計画区域外の市西部の丘陵・山間部であり、犀川と土尻川沿いの斜面に畑作を中心とした農地、森林及び集落が点在している。

この当地域では、地区毎に独自の伝統的文化を持ち、古くから長野地域と交流している。現在では、主に国道19号と県道31号線（オリンピック道路）によって、交流している。

また、市内でも特に人口減少と高齢化が進み、地域の活力が失われてきている地域である。



住民基本台帳より作成 (平成28年5月1日時点)

現況と課題

《拠点の形成・都市機能》

- 各地区では、旧町村の役場跡である市役所支所周辺に公共公益施設が立地しており、地区の中心的な集落が形成され行政や地域の生活の中心となっている。
- 地域内には、豊かな自然や景観を活かした聖山高原、虫倉山、陣場山、富士の塔等や地域に根付いた文化の発信地である信州新町美術館、化石博物館など観光・レクリエーション・文化施設が立地している。
- 信州新町には、総合病院、金融機関などの生活利便施設が立地し、地域内の生活中心地としての役割が期待される。

(課題)

- 地区の中心である支所周辺では、日常生活機能や福祉・教育施設などの集積と維持や地域内のネットワークの確保が必要である。
- 豊かな自然、心安らぐ景観、歴史的な資源を活かし、隣接する地域とも連携した観光等の拠点性を高めていく必要がある。

《土地利用》

- 農林業と生活が一体となった土地利用が行われてきたが、人口減少と高齢化の進展により、地域コミュニティの存続が課題となっている地区が増加している。
- 集落の多くは、森林や農地の中に点在している。
- 国道19号、県道31号線（オリンピック道路）沿いに、大きな集落や商店街が形成され、道の駅や特産品直売施設の地域振興施設が点在している。

(課題)

- 生活の利便性向上や既存の集落コミュニティの維持のための施設整備や施設展開が必要である。
- 人口減少・少子高齢化の対応として、豊かな自然や景観を活かした交流による地域活性化を目指した施設整備や施策の展開が必要である。

《道路・交通》

- ・隣接する市街地と連絡する幹線道路が各地を結んでいるが、山間部のため、整備が進んでいない区間もある。
- ・犀川や土尻川沿いの幹線道路である国道19号や県道31号線（オリンピック道路）と地区間を連絡する道路整備が求められている。
- ・地域内では、コミュニティバスが運行されている。

(課題)

- ▶隣接市街地との連携を強化するための道路強化・充実が必要である。
- ▶観光の回遊性確保や隣接地域との交流促進のための主要な地域を連絡する道路の整備が必要である。
- ▶防災面の向上や安全性を重視した生活道路の整備が必要である。
- ▶中山間地域では、集落間を結ぶデマンドタクシー等の効率的な移動手段が必要である。市街地との連携のため、住民の移動手段となるバス交通等の確保が必要である。

《自然環境・都市環境・景観》

- ・農地や森林といった自然的土地利用が大部分を占めているが、遊休・荒廃農地も増えてきている。
- ・有害鳥獣被害による農作物の被害が増加し、農家の営農意欲の低下を招いている。
- ・日本の棚田百選に指定された長野らしい里山の田園風景や北アルプスの展望などの農地と自然が調和した美しい景観が地区には残されている。
- ・虫倉山のトレッキングコースや聖山高原のキャンプ場などの自然に親しむ施設も立地している。
- ・琅鶴湖と久米路峡をはじめとする豊かな景観が保全されている。

(課題)

- ▶市街地の後背地である森林等の緑の保全と景観の保全が求められる。
- ▶幹線道路沿道等における良好な環境・景観の維持・創出を図る必要がある。
- ▶農林業を活かした交流促進や二地域居住者への営農支援等により、森林や農地の機能保全を図る。
- ▶自然の保護や水源の涵養を進めるとともに、棚田等の農地景観を保全する。
- ▶北アルプスの展望など景観を観光資源として活用・保全する必要がある。
- ▶犀川・土尻川沿いの自然豊かな里山と景観への配慮が必要である。

《防災・安全》

- ・広範な地域が地滑り防止区域に指定されており土砂災害を受けやすい地形となっている。
- ・山間地に集落が点在しており、土砂災害や冬季の降雪による地域生活への影響が懸念される

(課題)

- ▶災害防止のための基盤整備や予防・応急体制の充実が必要である。
- ▶災害時の集落孤立を防ぐため、複数のアクセス経路の確保が必要である。
- ▶冬季の降雪対策(道路等)を進める。
- ▶災害抑止のため、森林・農地の自然環境を保全し、保水能力を高める必要がある。

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	<p>農林業の保全と里山（中山間地域の居住地）の景観を確保しつつ、地域の活性化、防災、住環境整備や長野らしい里山の自然のなかで、農林業や生活が一体となった地域の生活環境の整備や活性化により、自然・景観などの地域資源を活かしたまちづくりを進め、地域間交流の増進と地域コミュニティの再生と維持を目指す「小さな拠点」づくりの取組みを進める。</p>
------------	---

整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や風土を尊重し、良好な環境を活かした里山居住地の形成を図る。 ・豊かな自然・景観を活かし、地域に根付いた文化の発信するため、観光・レクリエーション・文化施設の拠点形成を図る。 ・将来にわたって持続的に暮らせる地域づくりをしていく取組み「小さな拠点」づくりによる「生活中心地」としての形成を図る
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・里山集落と農林業との調和を図り、地域の自然、風土を活かした土地利用を誘導する。 ・公共公益施設が集約しているエリアを「生活中心地」として、生活利便施設等の維持を図る。 ・空家等の活用による、定住の促進や短期滞在、二地域居住などの新しい住み方、滞在方法を支援する。 ・点在する集落での生活環境の向上を図るとともに、高齢化や人口減少を踏まえ、地域住民の参加・合意をもとに集落整備を進め、長期的視点に立った集落形成やコミュニティの維持を図る。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する市街地と連絡する道路整備により、市街地との連携の強化を図る。 ・地域の防災性や居住環境を向上させる生活道路の整備や維持管理を進める。 ・住民生活の移動手段となるバス交通等やデマンドタクシー等の公共的な移動手段の確保を図る。 ・周辺の観光拠点との連絡を強化し、周遊性を高めるための道路の充実を図る。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な自然環境や雄大な景観の保全に配慮する。 ・市街地全体を縁取る緑としての森林、棚田などの農地の景観の保全を図る。 ・農林業を核とした交流促進や新規の就農希望者への営農支援、間伐材利用の木質バイオマス利用等により森林や農地の機能保全を図る。 ・自然の保護や水源の涵養を進め、森林資源の適切な活用による豊かな自然を保全を進める。 ・自然や観光スポットをめぐるトレッキング・ウォーキングコースの設定による地域内の回遊性や観光客の滞在性を高める。 ・北アルプス等の雄大な自然眺望の保全を図る。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等防止のための整備推進や予防・応急体制の充実を図る。 ・災害時の集落孤立を防ぐため、複数のアクセス経路の確保を図る。 ・冬季の除雪体制の強化・充実を図る。

〔地域共通の事項〕

- ・ 地域の自然や風土を尊重し、良好な環境と利便性を兼ね備えた長野らしい里山居住地の形成。
- ・ 農林業を核とした交流促進や二地域居住者への営農支援等により山林や農地の機能保全を図る。
- ・ 集落間を連絡するデマンドタクシー等の公共的な移動手段の確保。
- ・ 公共交通の維持や道路整備により、地域間や市街地への交通利便性の確保を図る。
- ・ 点在する集落での生活環境の向上と、高齢化や人口減少を踏まえた集落整備を進め、長期的視点による集落やコミュニティを維持。
- ・ 空き家等の活用や滞在施設の整備等により、短期滞在や二地域居住等の受け皿を確保。
- ・ トレッキング・ウォーキングコースの設定による地域内の回遊性や観光客の滞在性を向上。
- ・ 北アルプスなどの雄大な眺望や棚田などの農地の景観の保全。
- ・ 耕作放棄地の増加防止を図るとともに、森林を適切に整備・管理し、中山間地域や里山が持つ災害防止・水源涵養等の機能の保持を図る。
- ・ 自然環境や農林畜産物等を活用した自然体験や農村体験など、交流と憩いの場としての土地利用を図る。
- ・ 地域コミュニティの再生と維持を目指す「小さな拠点」づくりの取組みを進める。